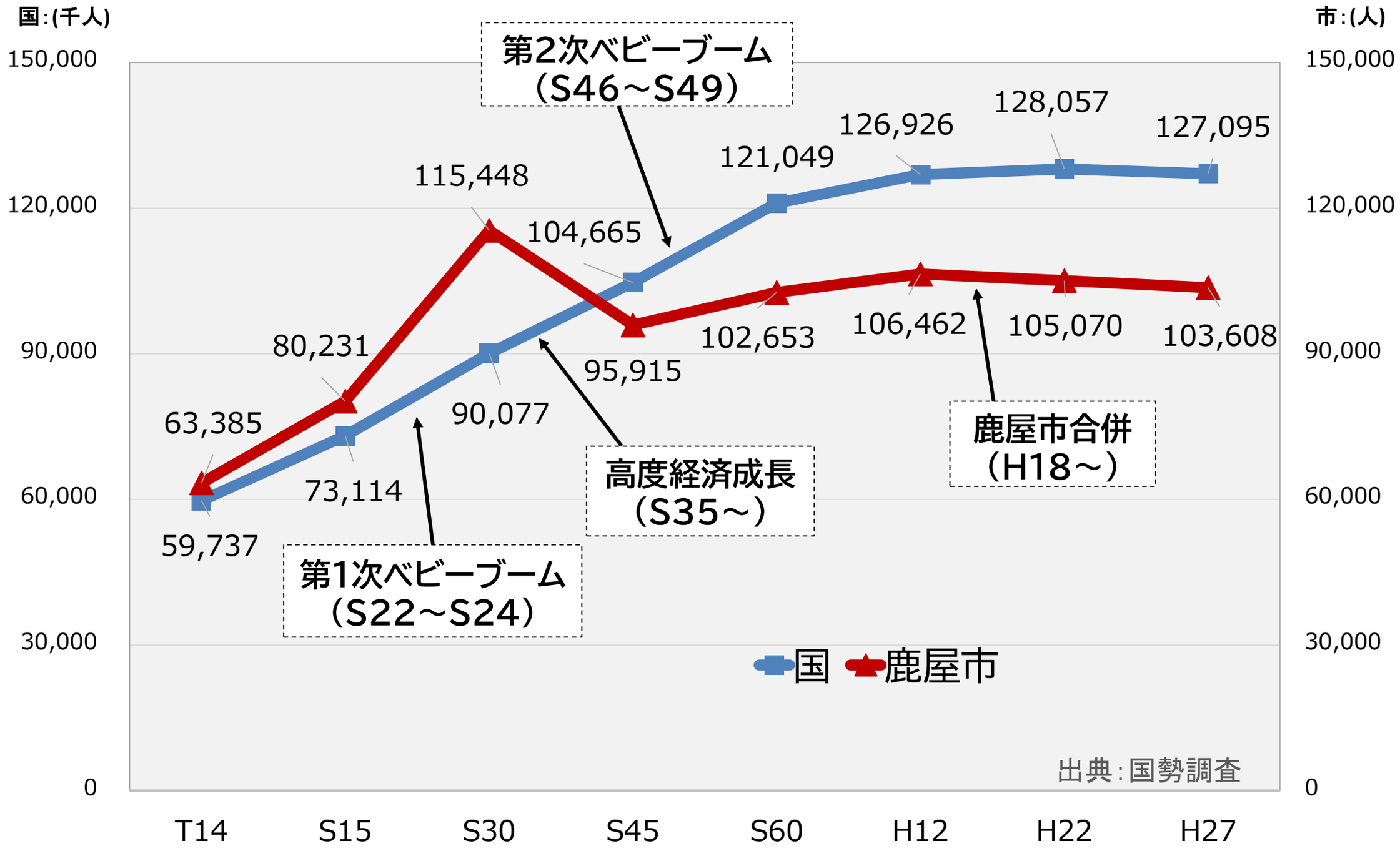
鹿屋市の取組について

【令和2年度 市政報告会】

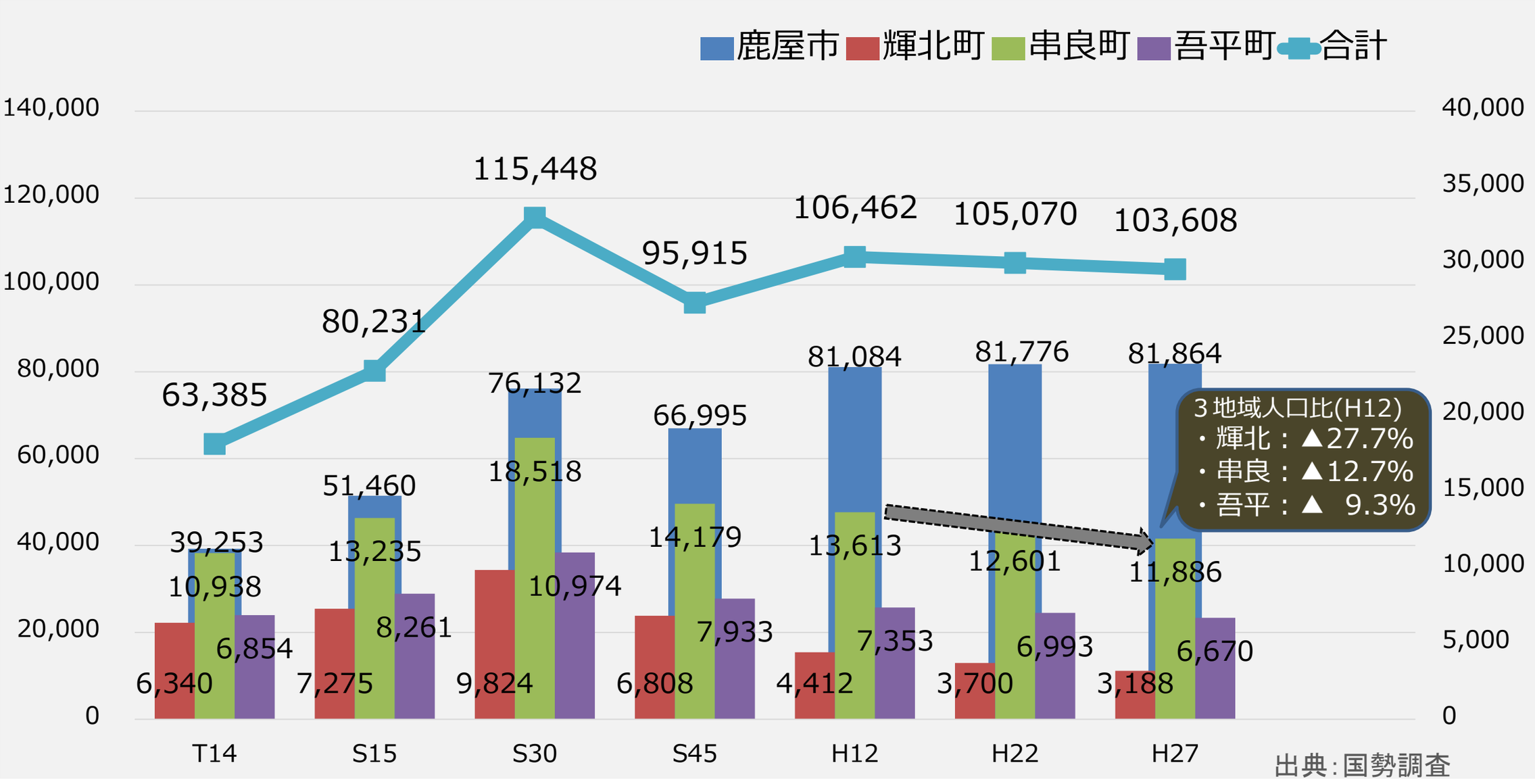
鹿屋市

人口動態

国及び鹿屋市の人口推移



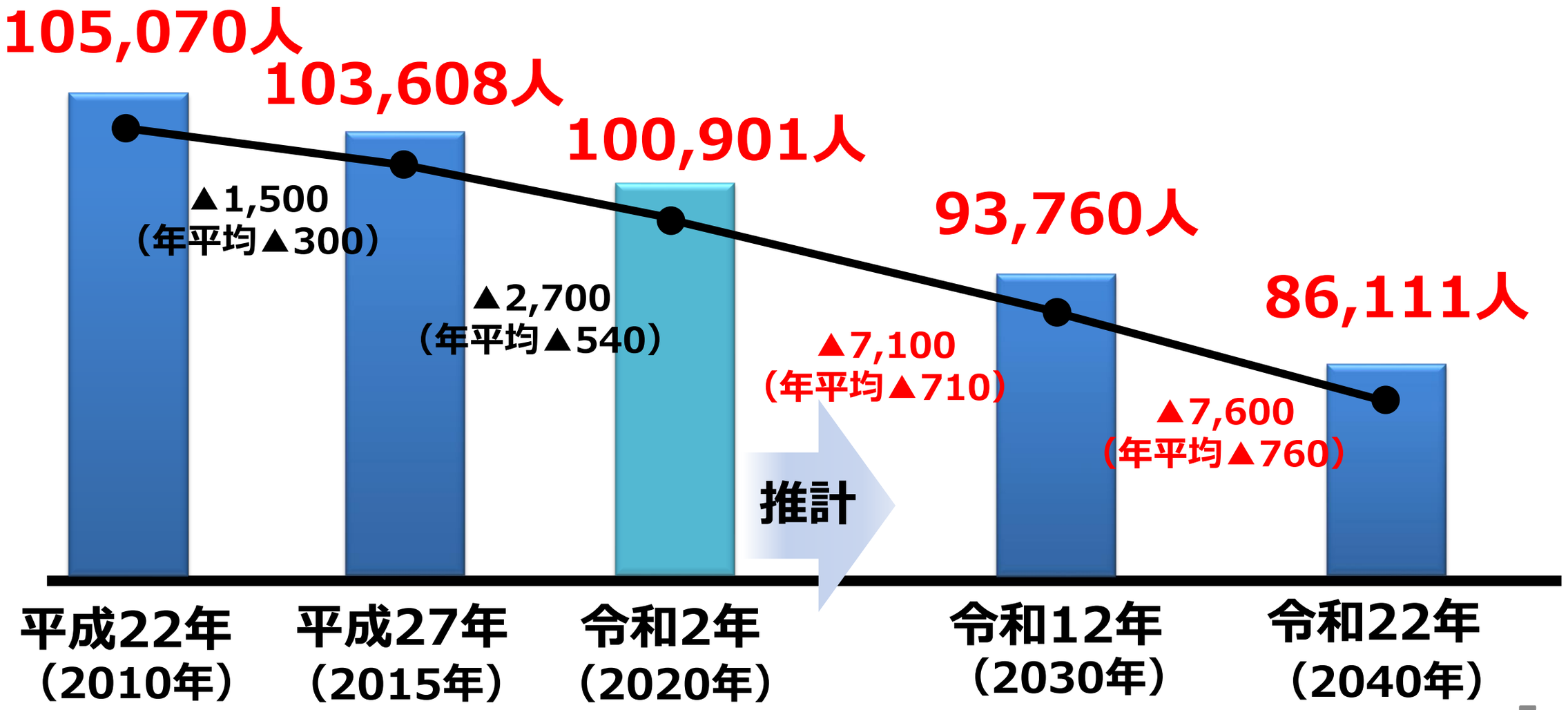
地域別の人口推移



輝北・串良・吾平の３地域は、人口ピーク時点（Ｓ30年）と比べ、大きく人口が減少。

本市の近年の人口推移

◆近年、人口減少のペースが加速。
◆令和22年には約８万６千人までの減少が予測される。



出典：国勢調査（H22・H27）、推計人口（R2年）、社人研推計（R12年・R22年）

近年の人口減少の要因（自然動態）

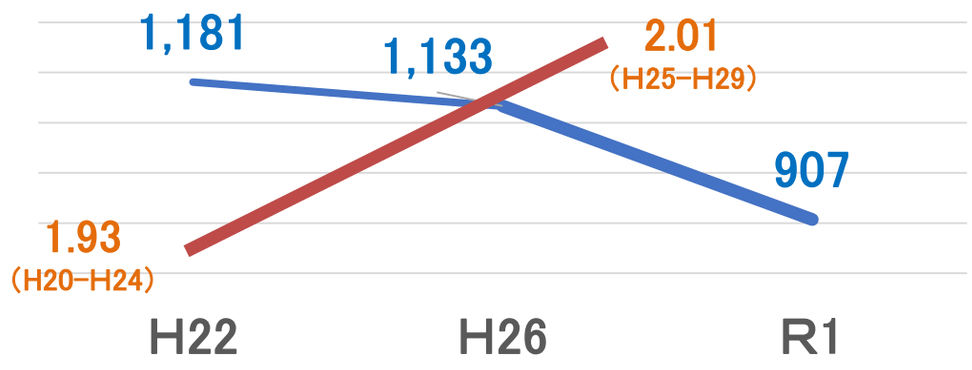
■自然動態：出生数－死亡数

	出生数	死亡数	自然動態
H22～H26	5,716	5,877	▲161
H27～R１	5,024	6,382	▲1,358

▲1,200人

■出生数減少の背景

出生数と合計特殊出生率

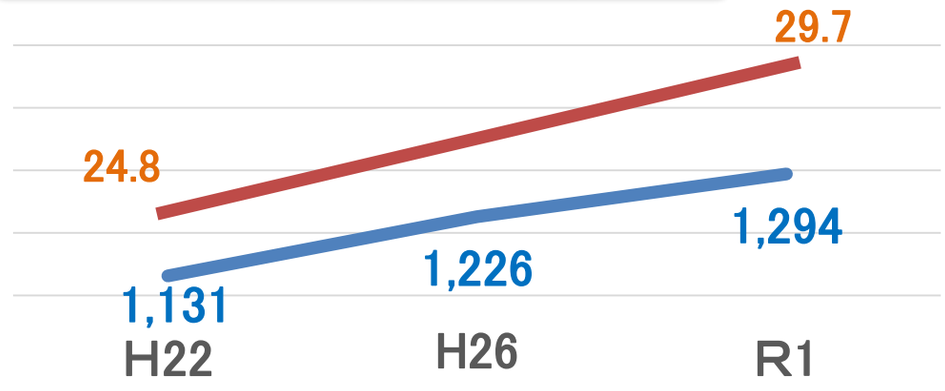


・15～49歳の女性人口　▲2,400人（H22-R1）
内）15～34歳の女性人口　▲2,150人

○若年女性の減少に伴い、出生数が減少
その他、未婚化・晩婚化の進展

■死亡数増加の背景

死亡数と高齢化率



・80歳以上の高齢者人口　＋2,900人（H22-R1）

○高齢者数の増加に伴い、死亡数も増加

近年の人口減少の要因（社会動態）

■社会動態：転入者数－転出者数

	転入者数	転出者数	社会動態
H22～H26	25,314	26,038	▲724
H27～R1	24,148	25,212	▲1,064

▲300人

■社会動態悪化の要因

若者の定住状況

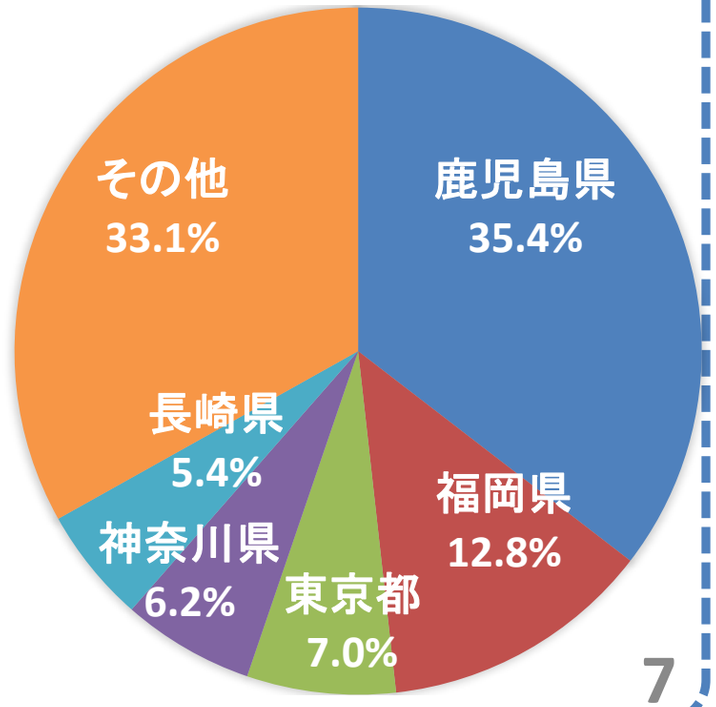
※住民票の移動のなかった者を含む

	全体	男性	女性
H18年度に18歳の子 ⇒25歳時(H25)も居住	49.0%	45.3%	52.8%
H25年度に18歳の子 ⇒25歳時(R2)も居住	44.0%	42.3%	45.7%

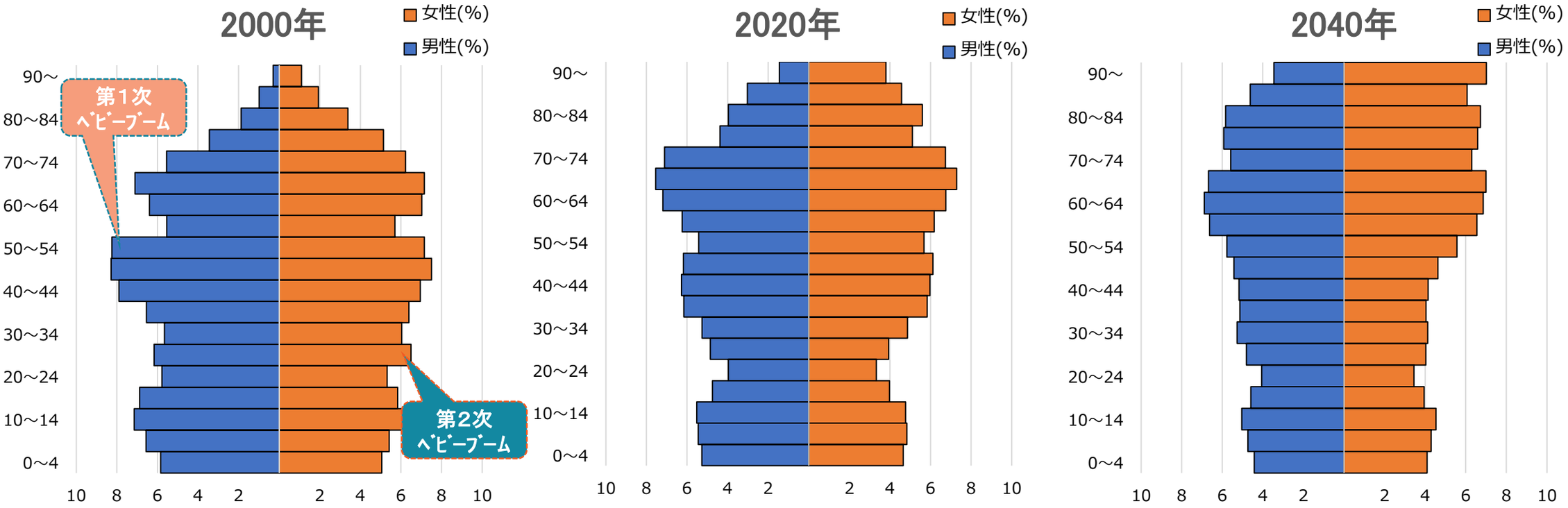
・高校卒業後に本市に戻ってくる子どもの割合が減少

⇒特に、女性の割合が大きく減少

▼15歳～24歳の転出先



人口減少の課題



出典：国勢調査（2000年）、県推計人口を加工（2020年）、社人研推計（2040年）

	2000年（H12）	2020年（R2）	2040年（R22）
年少人口（～14歳）	18,173（17.1%）	15,197（15.2%）	11,669（13.6%）
生産年齢人口（15～64歳）	65,835（60.2%）	54,777（54.7%）	43,493（50.5%）
高齢者人口（65歳～）	22,232（20.9%）	30,247（30.2%）	30,949（35.9%）
うち）後期高齢者人口（75歳~）	9,198（8.7%）	15,862（15.8%）	19,941（23.2）

- **さらなる高齢化の進行**
- **地域経済を支える、労働力の維持・確保が課題**

人口の将来目標

第２次鹿屋市総合計画の推進

５つの基本目標

- やってみたい仕事ができるまち
- いつでも訪れやすいまち
- 子育てしやすいまち
- 未来につながる住みよいまち
- ともに支え合い、いきいきと暮らせるまち

具体的な施策

- Ｕターンの促進・産業の振興
- 子育て環境の充実
- 健康寿命の延伸
- 住みやすいまちづくりの推進

など

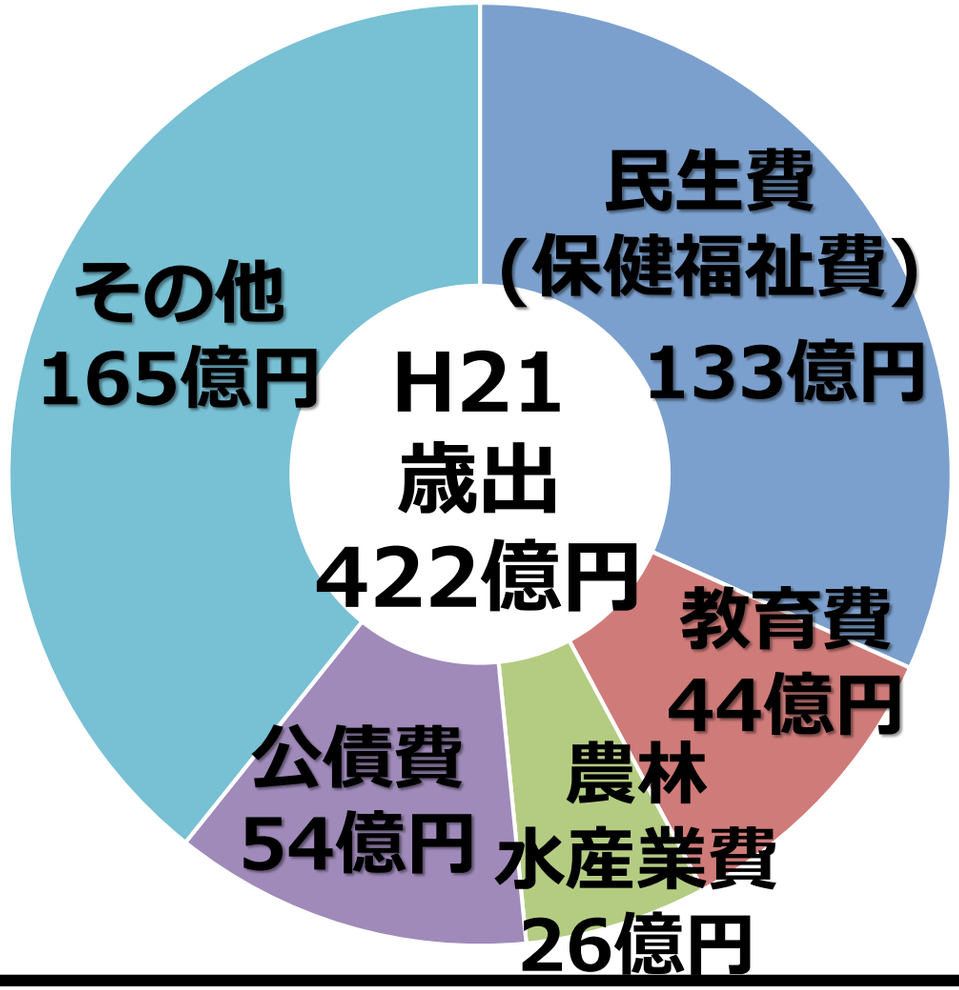
人口の将来目標

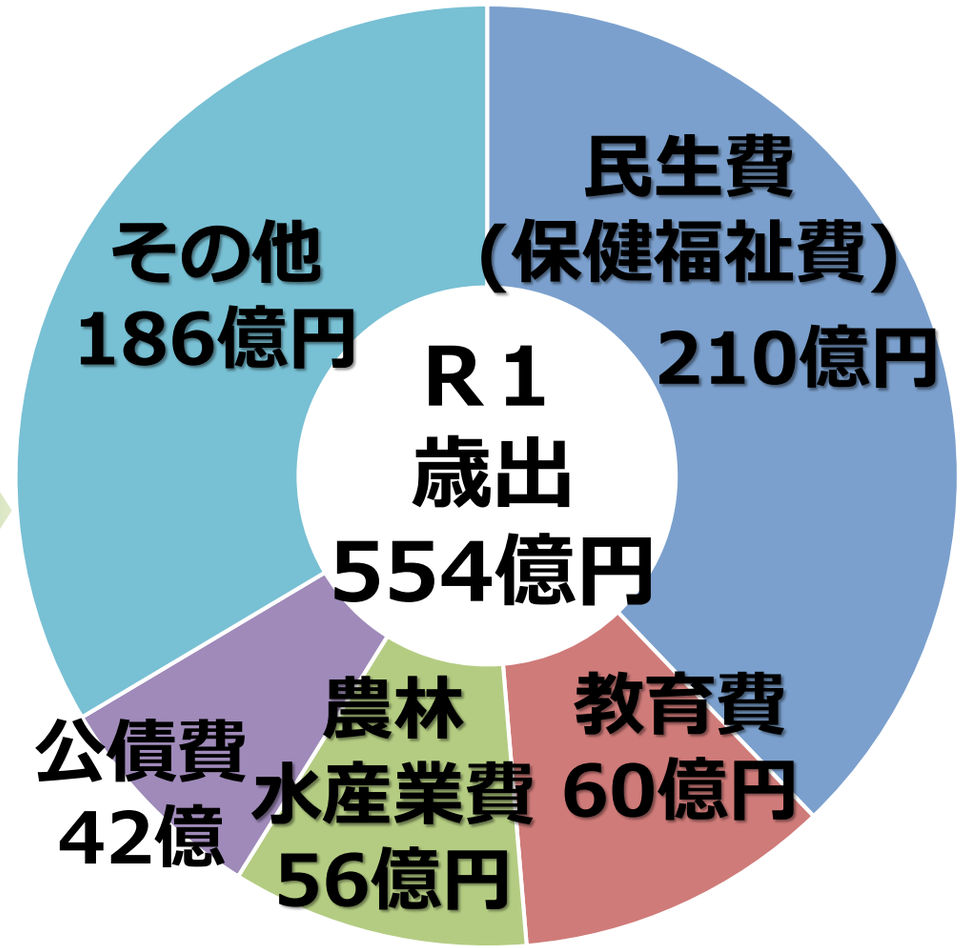
2060年に９万人程度の人口を維持

- 合計特殊出生率2.1
- 人口移動（転入・転出）の均衡（±０）

¥ 財政状況

鹿屋市の財政状況①（10年前との比較）歳出





●民生費の増（＋77億円）

福祉制度の充実等により増加

・幼児教育・保育の無償化
・子ども医療費の無償化
・障害福祉サービスの増 など

●教育費の増（＋16億円）

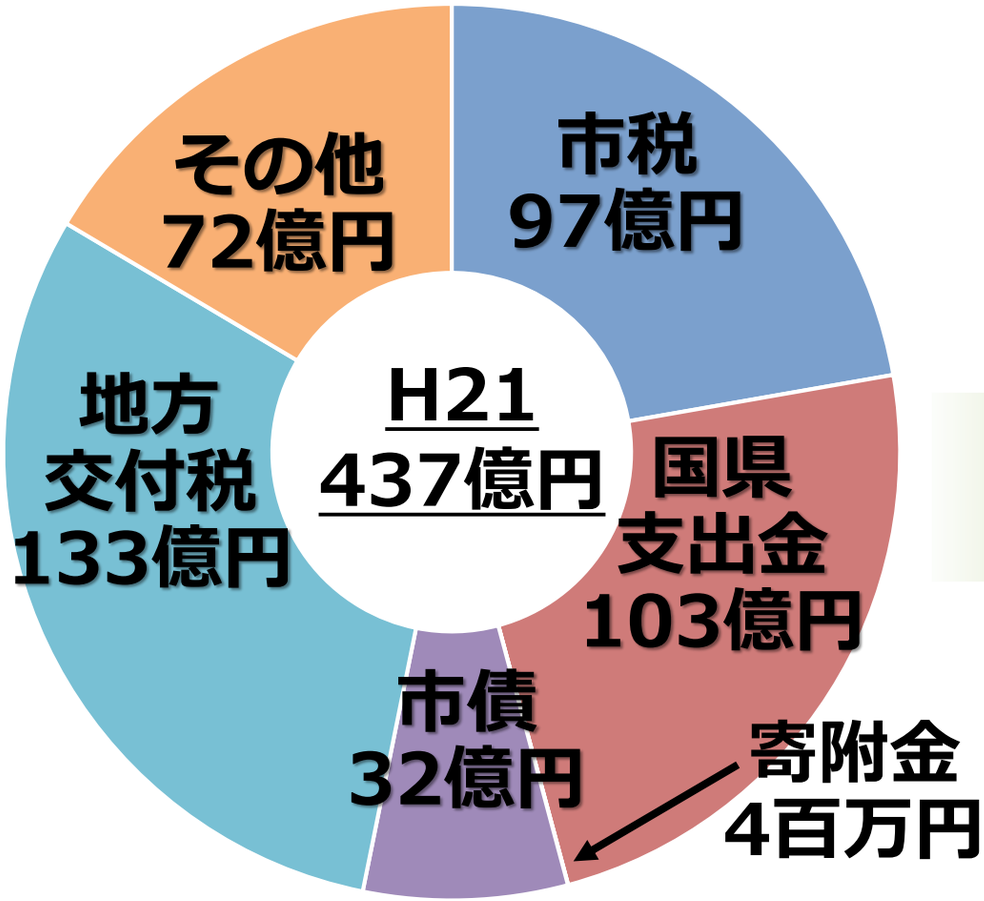
・女子高新校舎建設、小中学校空調化

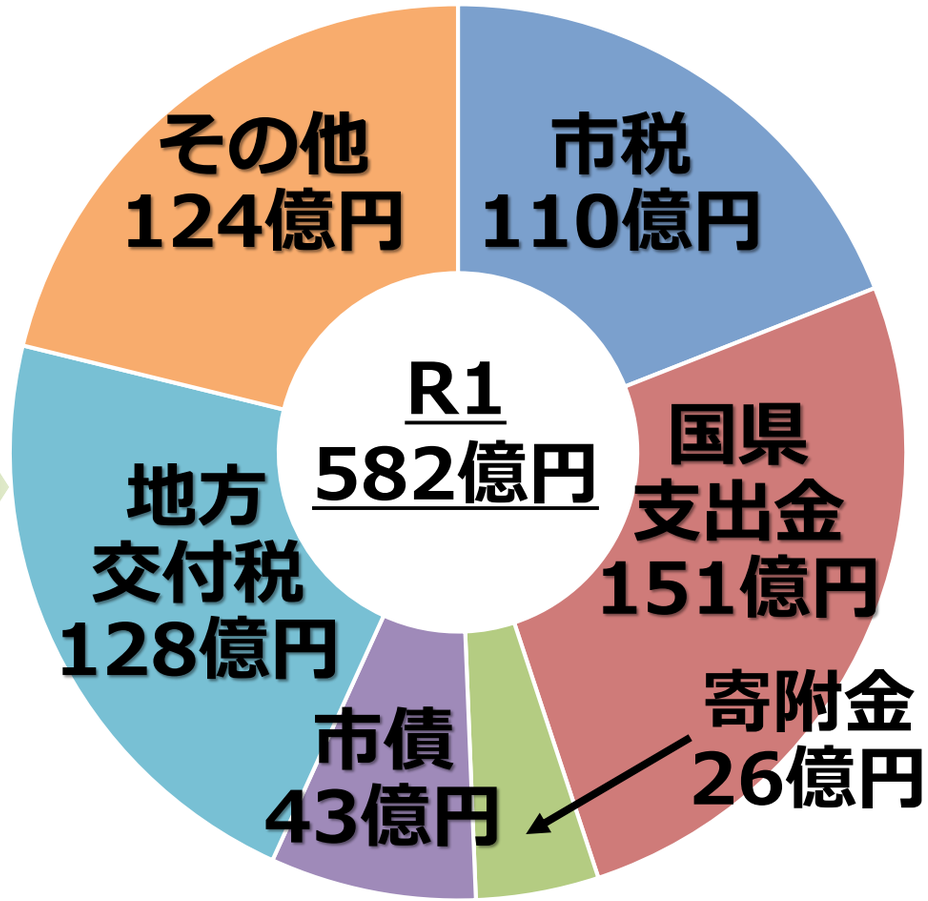
●農林水産業費の増（＋30億円）

産業基盤づくりの推進により増加

・畜産クラスター事業 など

鹿屋市の財政状況②（10年前との比較）歳入





●国県支出金の増（＋48億円）

福祉制度の充実、国の経済対策などに伴う国県負担の増加

●市債の増（＋11億円）

女子高新校舎整備など大型事業の実施に伴う増加

●財源の確保

・市税の増（＋13億円）

個人市民税

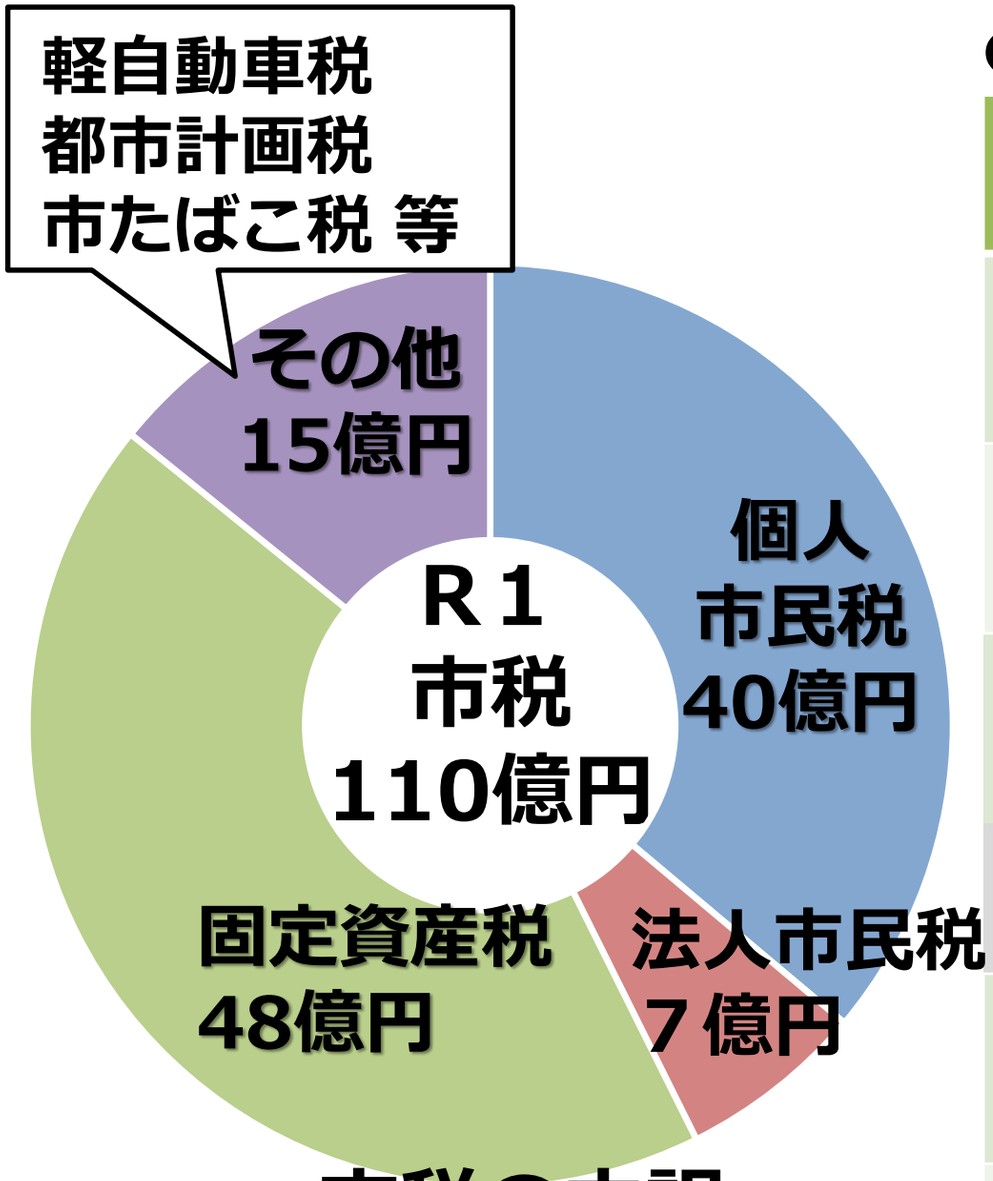
所得向上による納税義務者の増

H21:42,175人→R1:46,290人

・ふるさと納税の推進（＋25億円）

H21:350万円→R1:25.5億円

市税の状況（他市との比較）



市税の内訳
(R1年度決算額)

●他市との比較（令和元年度決算額）

区分	鹿屋市	霧島市	薩摩川内市	志布志市
個人市民税	40億	53億	37億	11億
法人市民税	７億	10億	７億	３億
固定資産税	48億	81億	81億	20億
うち償却資産	11億	25億	40億	７億
その他	15億	19億	16億	４億
市税合計	110億	163億	141億	38億

予算の主な使い方①

1 実施が義務付けられている事業

主な事業	Ｒ１ 決算額	負担割合
生活保護費	約２２億円	国３／４、市1／4
障害福祉サービス費	約３２億円	国１／２、県・市1／4
幼稚園・保育所等運営費	約５０億円	

2 市税等の一般財源のみで実施する事業

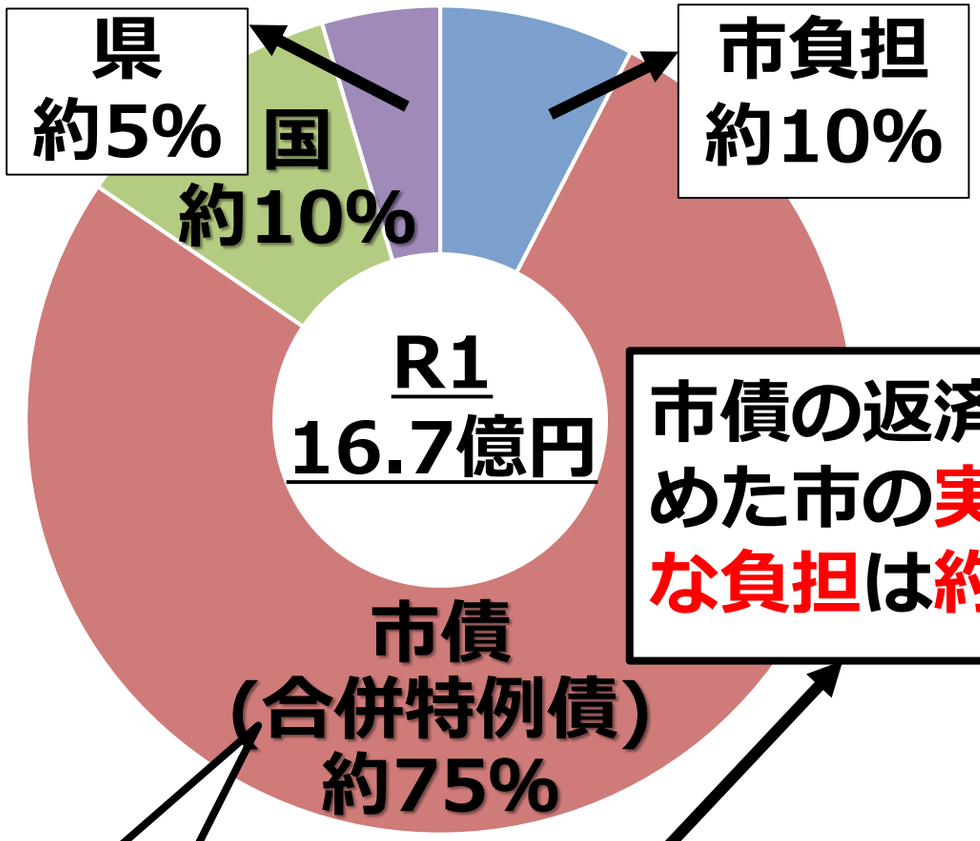
＜主な事業＞

- **町内会経費：1.1億円（Ｒ１）**
  広報誌配布等に係る市の委託事務に対する町内会への交付金
- **市道環境整備事業：1.3億円（Ｒ１）**
  穴ぼこ等の修繕、除草伐採等の維持管理
- **一般廃棄物（ごみ）処理事業：９.２億円（Ｒ１）　など**

予算の主な使い方②

3 国県の補助金等を活用して実施する事業

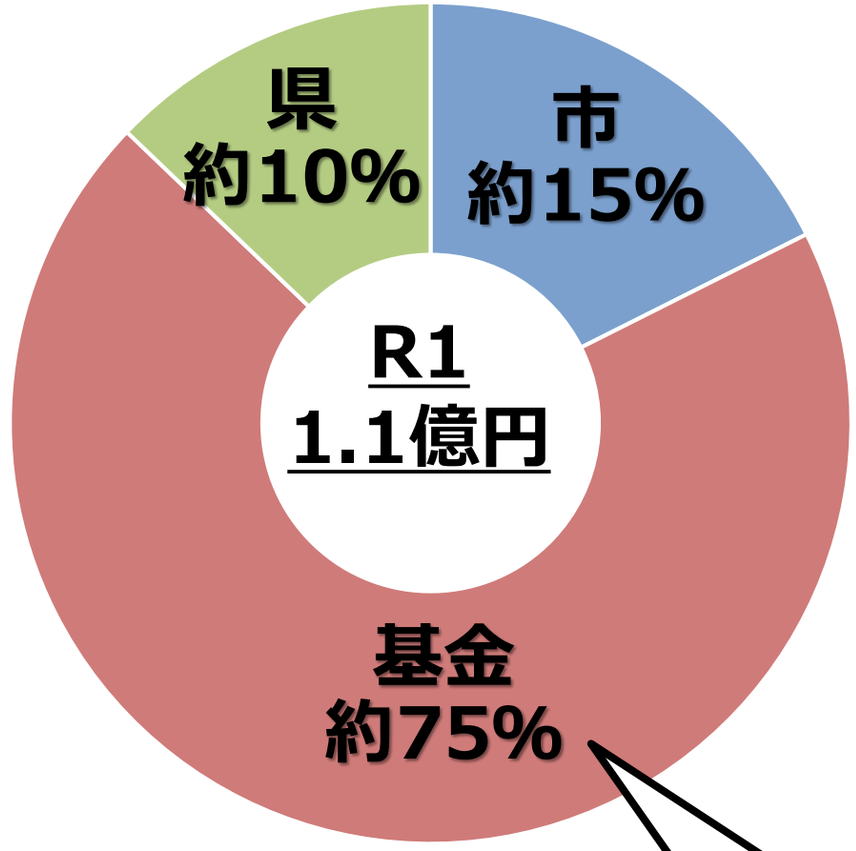
例１）鹿屋女子高新校舎建設



市債の返済を含めた市の**実質的な負担**は**約３割**

返済費は市の負担となるが、うち７割は国からの交付税により手当

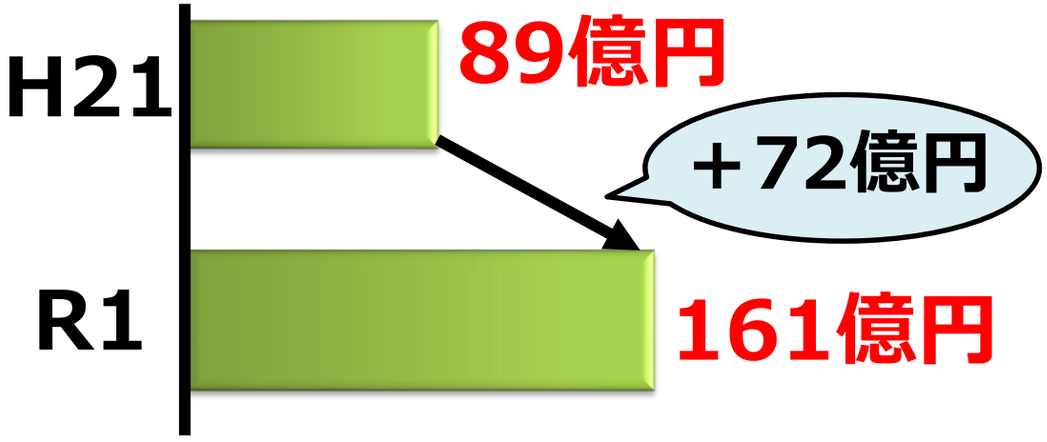
例２）総合交通対策事業



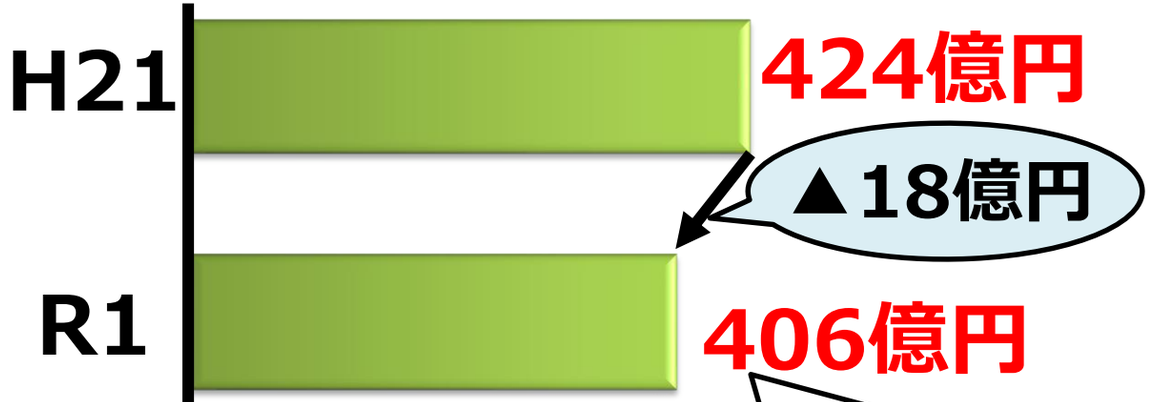
くるりんバスや廃止路線代替バス等の運行に基金を活用。基金を含めた市の負担は約９割

基金と市債（積立と分割払い）

＜基金残高の推移＞



＜市債残高の推移＞



交付税措置のある有利な市債の発行などにより、**実質的な市債残高は約100億円**

参考：人口一人あたりの基金・市債の額

基金残高
16万円／人

県内19市中
１7位

市債残高
39万円／人

県内19市中
最も少ない

今後の財政運営

今後の財政運営の目標

将来にわたって持続可能で健全な財政運営の確立

財源の確保

- **ふるさと納税の推進**
  R1:25.5億円
- **市税の収納率向上**
  キャッシュレス決済導入など
- **新たな資金調達の活用**
  企業版ふるさと納税など
- **未利用財産の売却・活用**
- **基金の債券運用　など**

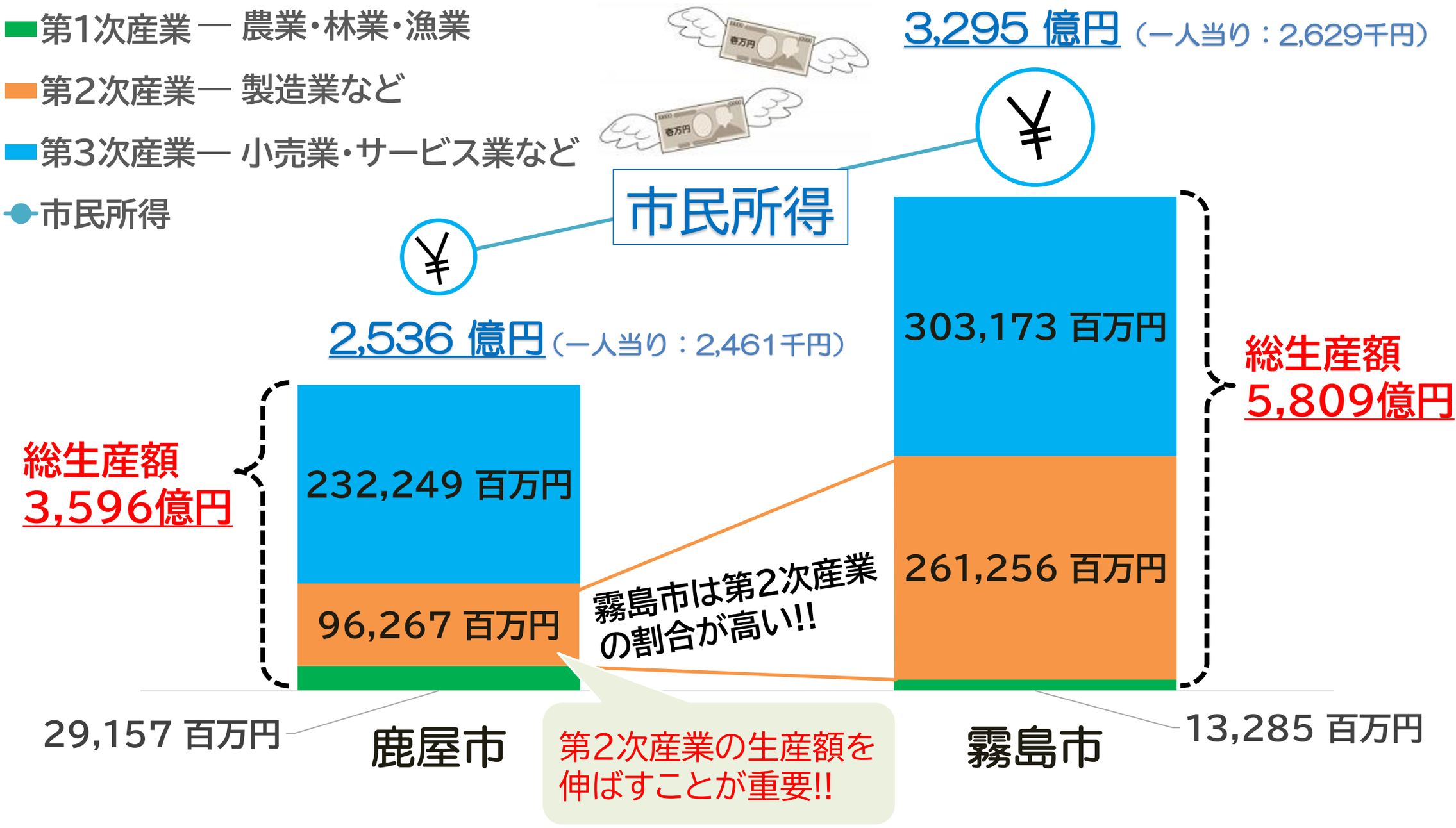
R2～

歳出の抑制

- **事業成果や費用対効果等に基づく予算配分(事業の重点化)**
- **公民連携(PFI等)**
  桜ヶ丘子育て支援住宅整備
- **広域連携の推進**
  産科医確保対策の実施
  消費生活相談の広域連携
- **行政事務の効率化**
  ＲＰＡ導入などのデジタル化　など

産業構造と鹿屋市の位置づけ

総生産額と市民所得（霧島市との比較）



出典：平成27年国勢調査、総務省・経済産業省「経済センサス」、鹿屋市調べ

コンパクトなまちづくりの推進

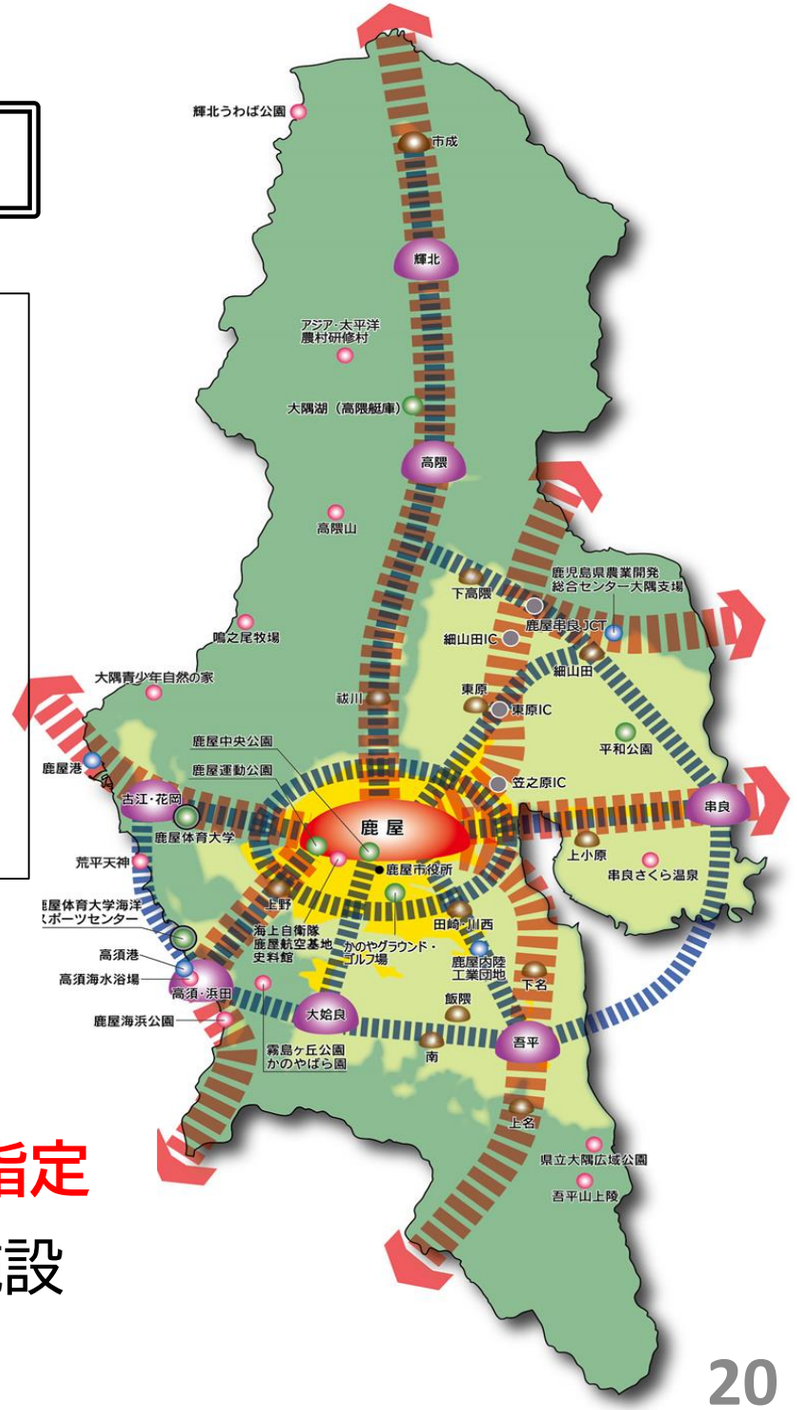
■都市づくりの方針

「多極ネットワーク型コンパクトシティ」の実現

◎ 中心拠点においては、買い物や医療など多様な都市機能集積と利便性を高め、市全体の生活を支える拠点を形成

◎ 輝北・串良・吾平等の地域拠点においては、通院や買い物など身近な生活機能の維持・確保による持続可能な地域づくり

◎ これらの拠点を道路や公共交通で有機的に連携



■具体的な取組

◎ 市街地拡大の抑制やまとまりのある都市づくりに向けた**用途地域の見直し**や**特定用途制限地域の指定**

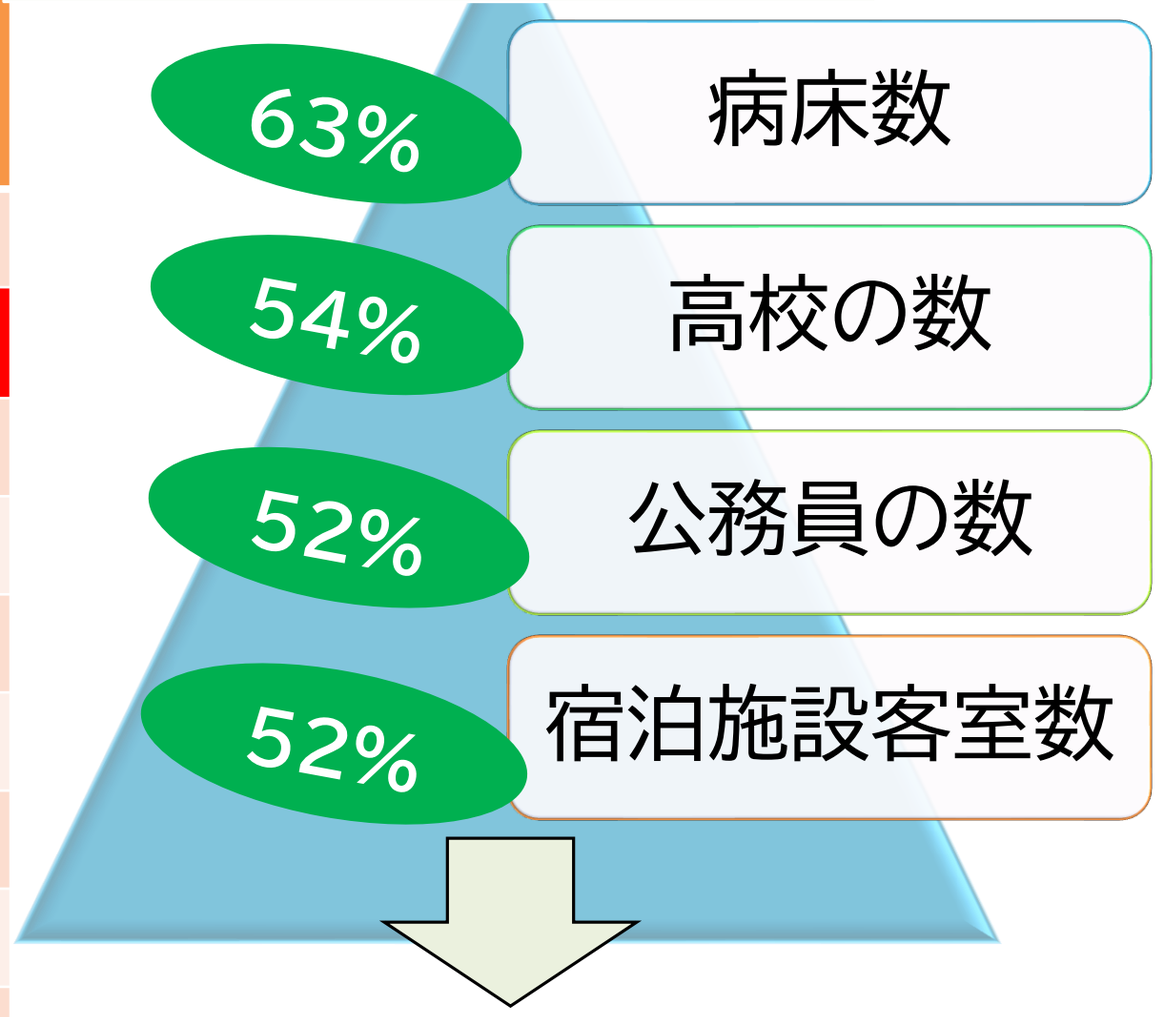
◎ 誘導支援を講じながら、居住や商業・医療・福祉施設などの集約を目指す**立地適正化計画の策定**

大隅地域における鹿屋の位置づけ

区分	官公庁関連事業所（従業者数）	病床数	宿泊施設（客室数）	高校
総数	11,113	4,075	2,003	13
鹿屋市	**5,771**	**2,561**	**1,040**	**7**
垂水市	580	126	235	1
曽於市	1,343	659	103	1
志布志市	1,398	363	251	2
大崎町	377	-	181	-
東串良町	194	-	-	-
錦江町	398	196	19	-
南大隅町	303	-	81	1
肝付町	749	170	93	1

出典：平成27年国勢調査、総務省「経済センサス基礎調査」、鹿屋市調べ

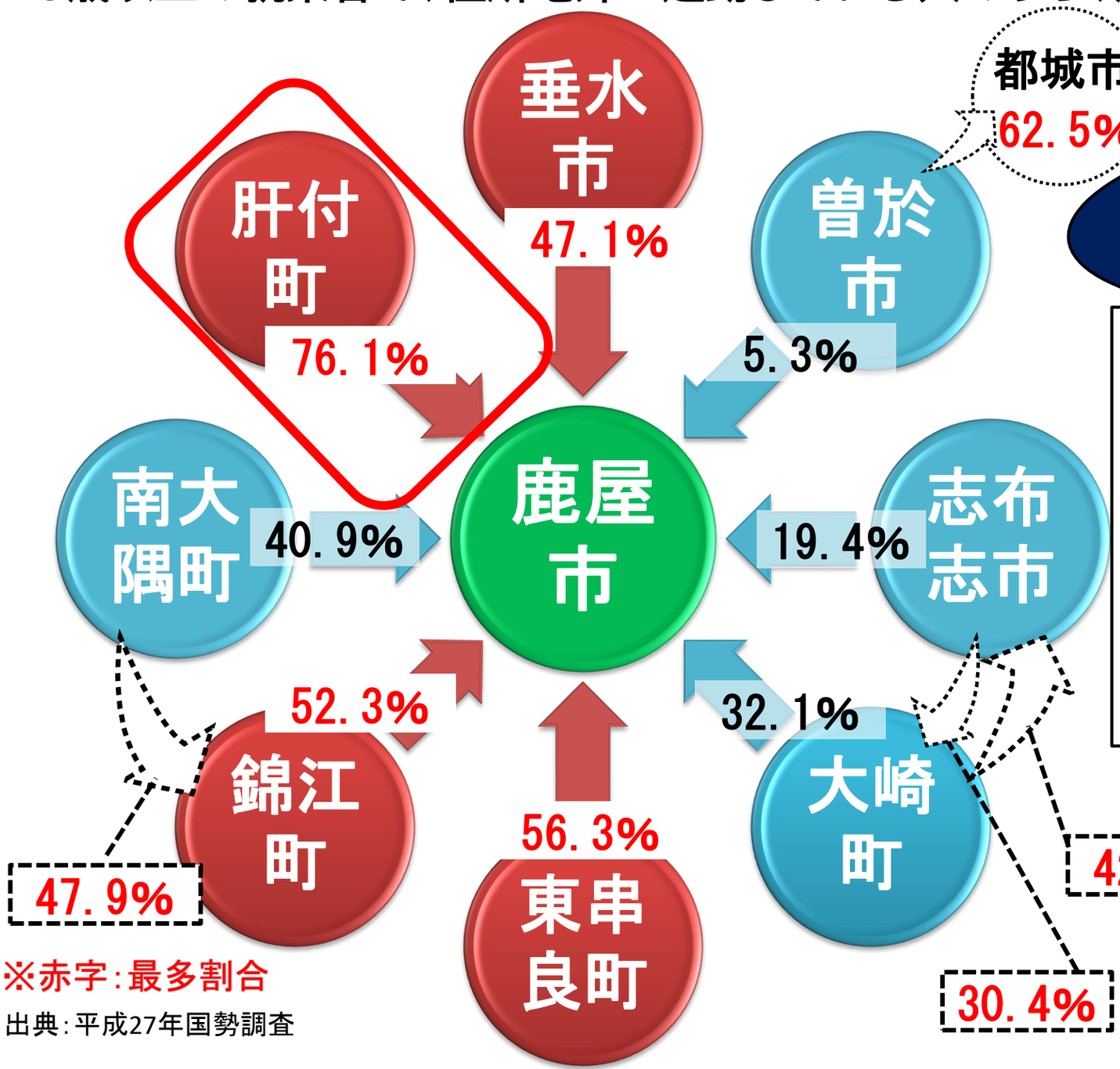
大隅地域で本市が占める割合



大隅地域の中心都市として、「人」・「モノ」が集積

住所地外への通勤構図

15歳以上の就業者で、住所地外へ通勤している人のうち、鹿屋市に通勤している人の割合



昼間人口は
夜間人口の105%!!

肝付町、東串良町、錦江町では住所地外通勤者の半数以上が鹿屋市に通勤しており、特に肝付町からの通勤が顕著

（※曽於地域については宮崎方面への通勤が多い）

※赤字：最多割合

出典：平成27年国勢調査

鹿屋市の果たす役割

大隅半島の中心部に位置する鹿屋市には、主要施設（官公庁、医療機関、宿泊施設、学校等）が集積

⇒ 近隣市町にとっても働く場、学ぶ場

鹿屋市の発展＝大隅半島の維持・発展

広域市町との連携による活性化を推進

広域市町の働く場として、市内産業の生産性の向上を図り、企業所得を向上させる。

鹿屋市民の所得向上

市政運営の基本方針

市政運営の基本姿勢

ぬくもりと豊かさを実感できる
“市民が主役の明るい未来づくり”

『もっと身近な、もっと熱い、もっと分かり易い』
市政運営

〇市民の声を市政に反映

〇市政情報の発信力強化

本気で語ろう会

・市内で様々な活動を行っている団体・グループ等との意見交換を実施
（６年間で、これまで**62回**開催）

・市民の皆さんの生の声を市政運営に反映

本気で語ろう会

【主な対応状況】

市民の意見①

・道路環境の整備

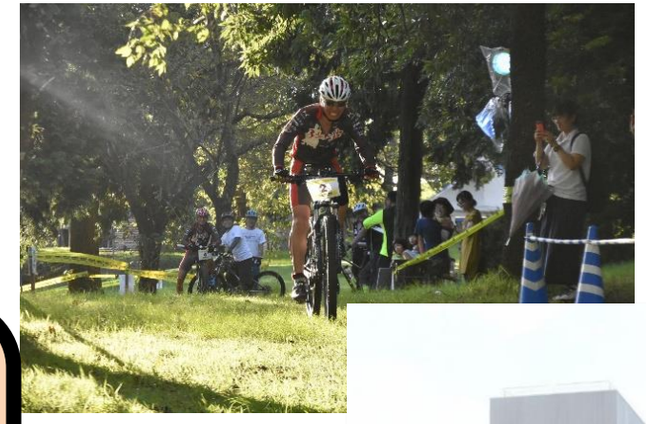
・街灯の新設
・既存街灯のＬＥＤ化
・路側帯カラー表示

市民の意見②

・霧島ヶ丘公園の多様な利活用の検討

・マウンテンバイクパーク(H30.7月)
・南州農場の「くろぶたの丘」(R2.6月)

【その他の取組】
・バラのトンネルなど華やかな演出を取り入れた園内整備
・霧島ヶ丘公園から南風ガーデンをつなぐ散策路の整備



市民の声直行便

市民の皆さんから市政に関するご意見やご提言をいただくための提案制度（市HPで公表）

市民提案件数：684件
（平成26年度～令和元年度）
＜内訳＞
- **提案：　87件**
- **要望：215件**
- **意見：215件**
- **苦情：167件**

▲直行便専用ポスト
(本庁舎、総合支所に設置)

市民の声直行便

【主な対応状況】

市民の声①

・バス路線図があれば便利！

・市内のバス路線図を作成
・市ホームページや広報かのや等で紹介

市民の声②

・コロナ禍の影響を受けている市民生活を支援して！

・国の給付金の対象から外れている新生児への支援
・家族を在宅で介護する世帯への支援
・保育所等従事者への支援　等

市民の声直行便

【主な対応状況】

市民の声③

・図書館までバスで行きたい！

くるりんバス
令和元年10月から図書館前を含む北ルートの運行開始

市民の声④

・鹿屋女子高周辺で歩道が無い道路があり歩道がある所も狭くて歩きにくい！

女子高の新校舎整備に併せて歩道の整備（新設・拡幅）を実施予定

市政モニター制度

公募等により選ばれた市民等を市政モニターとして委嘱し、「既存事業の効果検証」及び「新規事業の構築」に向けた市民等のニーズを把握する制度（平成27年度～）

◆市政モニター実施回数：21回（平成27年～令和元年）

＜年度＞：＜回数＞（主なテーマ）

- H27：　４回　（スポーツ振興関係）
- H28：　４回　（家庭での防災対策関係）
- H29：　４回　（広報かのや関係）
- H30：　６回　（男女共同参画関係）
- R １：　３回　（公共交通関係）

◆市政モニター数：200人（男性：82人、女性：118人）

市政モニター制度

【主な対応状況】

対応状況①

・「広報かのや」リニューアル

・市民が主役の広報誌への転換
・「輝け！ジュウダイ」や「おしごとの時間」コーナーの新設

対応状況②

・「防災マップ」リニューアル

・ポスター版防災マップを追加
・白地図を使用し、危険箇所を見やすく表示

各種計画の策定への市民参加
【例：第2次鹿屋市総合計画の策定】

計画策定への市民参加

市民のアイデアを市政に活かす取組

▲高校生アイデアコンテスト

▲まちづくりミーティング

主な意見

・くるりんバスのルートの見直し
・広報対策の強化　など

市民アンケートの実施

- **対　象：市民３千人**
- **回答数：886人（29.5%）**
- **市の施策への満足度等を調査**

その他

- **パブリックコメントの実施**
- **審議会委員として有識者に加え、市民からも委員を公募**

市公式ホームページのリニューアル

・より見やすく、使いやすく、親しみやすくするため

障がい者対応

スマートフォン等対応

災害時特設ページ

翻訳機能の充実

- 英語
- 中国語
- 韓国語
- タイ語
- ベトナム語

必要な情報に簡単にアクセスできるように
トップページ中央に検索窓を設置

R２～

⇒リニューアルによりアクセス件数が倍増

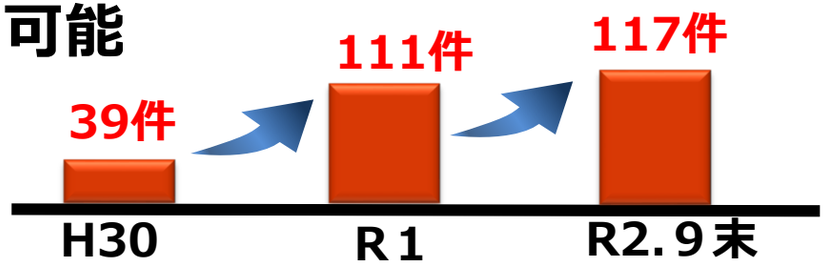
時代に即した情報発信

かのやライフ

市総合スマートフォンアプリ
「かのやライフ」の配信をスタート

地域レポート機能 ※対応件数

道路の穴ぼこ情報などの投稿が可能



母子健康手帳アプリ

- デジタル母子健康手帳
- 市から子育てに関する情報発信　など

市公式ＬＩＮＥ

キーワード応答メッセージ機能

・バス、イベント、住民票などを検索
⇒関係する市ホームページのリンクを案内

ＩＣＴを活用した行政サービスの向上

市内のほぼ全域において光インターネットを整備完了!!

Ｈ29～Ｒ２年度にかけて整備【総事業費 約20億円】

※民設民営

インターネットの高速通信が可能 → ・市民の利便性向上
・企業などの進出しやすい環境

○「鹿屋市役所スマート化計画」を今年度策定中

・住民サービスの向上を図るため、ＩＣＴ等を活用したスマートな市役所を目指す。

＜将来的な目標＞ 一部抜粋

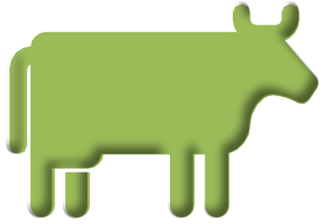
○ 窓口サービスの向上（書かない市役所）

- マイナンバーカードやタブレット等を利用した便利な窓口サービスの提供

○ オンライン申請（行かない市役所）

- 自宅に居ながら、オンラインでの申請手続きが出来るように利便性の向上

鹿屋市の取組（分野別）



産業振興

産業振興

☺農業産出額は全国９位（／1,741市区町村）で国内トップクラス
※なかでも畜産は全国３位⇒鹿屋市の農業産出額を牽引

☹国内の人口減少に伴う食のマーケットの縮小
大消費地まで遠く、情報発信力が不足

国内外の厳しい環境変化と闘える
足腰の強い農業経営の確立を支援

◆かのや食・農商社推進室の設置（平成29年度～）
⇒販路開拓支援、輸出促進、高付加価値化
◆トップセールスによる食品関連企業の誘致

販路開拓支援

国内：展示・商談会への参加支援や、バイヤー等の産地招聘
国外：ホストタウンの取組と連携した商品PRや商談会への出展支援

【実　績】平成29～令和元年度

国　内
○展示・商談会への参加支援：54件
○個別商談：99回
} **商談成立：177件**

国　外
○輸出実績：平成29年度 約1,800万円 ⇒令和元年度 約１億円

区　分	品　目	主な輸出先	金　額
令和元年度輸出内訳	さつま芋	タイ、香港、シンガポール	約6,700万円
	和牛(精肉)	香港	約2,300万円
	加工品(乾燥野菜・焼酎等)	シンガポール、台湾	約1,000万円

地域６次産業化の推進

○地域の１次×２次×３次　産業の連携

１次産業	鹿屋産の豚	鹿屋産のカンパチ
×		
２次産業	鹿屋の食品加工工場	鹿屋の食品加工工場
×		
３次産業	県内外の店舗で販売	

豚ばら丼

鹿児島空港内店舗

カンパチ漬け丼

異業種間による産業連携(地域６次産業化)による新商品開発等を推進

企業立地促進による雇用の創出

▲鹿児島くみあい食品株式会社
（令和元年６月　操業開始）

▲南州農場株式会社『くろぶたの丘』
（令和２年５月　操業開始）

年度	立地企業（うち食品関連企業）		
	新設	増設	移設
H26	1件	2件(1)	0件
H27	2件	1件	0件
H28	3件(1)	5件(1)	0件
H29	1件(1)	2件	0件
H30	1件	1件	0件
R1	4件(3)	0件	1件
合計	12件(5)	11件(2)	1件

約４００名の雇用を創出

今後の取組

- 新たな工業団地の整備
- サテライトオフィス誘致

■新型コロナの影響により
・働き方の多様化
・拠点分散の進行

若者の雇用機会の確保、U･Iターン者の受け皿

「農業のまち鹿屋」活力ある農業の振興

＜耕種農業における課題とこれまでの主な取組＞

課題	主な取組	実績（H26～R1）
農家の高齢化、農家数の減少等	新規就農者など、担い手の確保・育成 等	○76人（新規＋後継者） ○認定農業者（法人） （H26:103経営体 ⇒ R1:126経営体）
農地の集約・集積、耕作放棄地の解消	農地中間管理事業等の活用、地域関係者による課題解決体制づくり	○農地中間管理事業（H27～R1） 457ha ○人・農地プランに位置付けられた地域の中心経営体 （H26:408経営体 ⇒ R1:671経営体）
農作業の効率化、作物の高品質化	機械・施設整備への支援等（国・県・市補助事業）	○機械・施設整備（85経営体） ○後継者の施設・機械導入（5経営体） ※課題解決のために、農家や関係機関と連携しながら「スマート農業」の推進について調査・研究

スマート農業の推進

耕種部門

「スマート農業」＝「農業」×「先端技術」

※ロボット、AI、IoT技術で超省力化、作業の軽労化、高品質化等を実現

農業における主な課題

- 担い手の減少・高齢化により労働力不足
- 人手に頼る作業や熟練農家にしかできない技術が多い

「かのや型スマート農業推進方針」策定(H31.3)

※本市の耕種農業の特性や生産環境に見合ったスマート農業の推進

○ 具体的な取組

ドローンによる農薬散布

環境制御装置による
ハウス内データの
計測・蓄積等

【参考】導入が進む畜産部門

分娩・発情監視システム
による管理作業の効率化
※スマホに情報送信
⇒死産が大幅に減少!!

畜産の振興

○生産基盤の強化

・規模拡大、経営維持への支援
（牛舎等整備への支援、高い技術と経験を持った高齢農家の生産維持奨励金など）

・担い手の確保　など

区分	牛舎整備実績（H26～R1）			
地区	鹿屋 9件	串良 10件	吾平 6件	輝北 9件
合計	34件			

区分	近年の状況（H26以降）
担い手の確保 （新規＋後継者）	H26～R1の6年間で 21人の担い手を確保

○経営力の強化（畜産クラスター事業）

・収益性の向上や畜産環境改善を図るための施設、機械整備を支援

区分	実績（H28～R1）		
畜種	肉用牛 10件	酪農 2件	養豚 9件
合計	21件（総事業費：78億1,110万円）		

防疫体制の強化と環境対策

防疫体制の強化

ASF（アフリカ豚熱）・CSF(豚熱)の進入及びまん延防止対策

- 野生動物侵入防護柵設置への支援
- 初動防疫に必要な資材（消毒薬・液、防疫服等）の備蓄

侵入防護柵を設置した農場

初動防疫演習

環境対策

- 市職員、巡回パトロール員による巡回指導
- 家畜ふん尿処理施設の水質検査の実施
- 消臭資材の培養、無償配布
- 飼養衛生管理基準の遵守を徹底指導

畜産環境パトロール

地元就職支援

〇背景・・・・・・・・・市内高校の新卒者における市内就職率は、近年15%程度で推移
〇就職を考える上で重視されているもの・・賃金、仕事内容、福利厚生、休日の確保
（合同企業就職面談会のアンケートより）

▼市内高校卒業生の就職状況（令和2年3月卒）　（単位：人）

鹿屋市内		県内（鹿屋市以外）		県外		合計	卒業者数（就職率）
人数	割合（%）	人数	割合（%）	人数	割合（%）		
54	15.4	103	29.4	193	55.2	350	1,080（32.4%）

〇企業見学会

地元企業を知る機会が少ない高校生を対象に、地元企業の魅力を理解してもらうための企業訪問バスツアーを実施

〇合同企業就職面談会

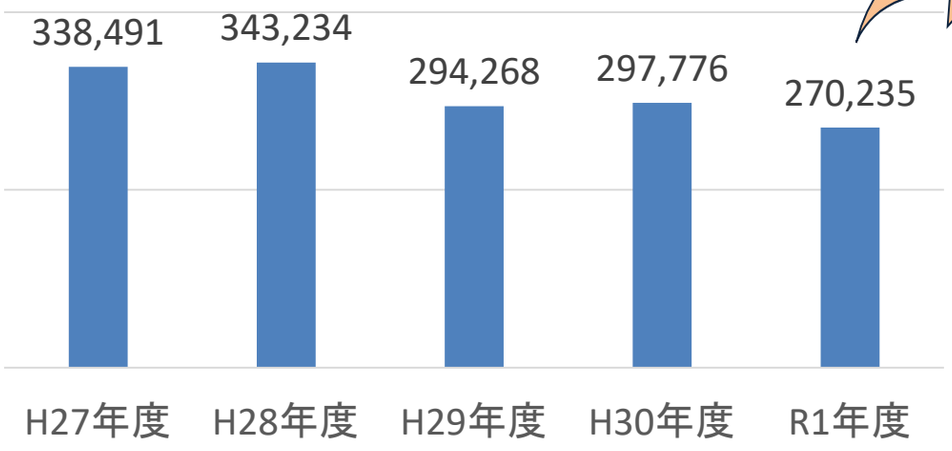
企業の担当者と直接面談を行い、インターネットやパンフレットでは得られない情報等を知る機会を提供
→雇用のミスマッチ解消や企業の採用活動を支援

年度	マッチング数
H29	9人（8社）
H30	22人（15社）
R1	13人（12社）
計	44人（35社）

中心市街地の活性化

○リナシティかのやの活用

リナシティかのやの利用者数（人）



集客力のあるイベントや講座などを定期的に開催!!

冬華火

リナフェスタ

KITADA SARUGGA

リナシティまるごと食フェス

食と暮らしのマルクト@おおすみ

「リナシティかのや」や「KITADA SARUGGA」の運営、商店街や若手経営者等の各種団体と連携したイベント等の開催により、市街地の賑わいづくりと活性化を図ったことで、新たなホテルの建設や、京町エリアの活性化等、新たな動きが生まれている。

地域資源を生かした観光の推進

本市への誘客促進の目標

重要業績評価指標(KPI)	基準値(H29)	目標値(R6)
入込客数【年度】	1,321,472人	1,500,000人
宿泊者数【年度】	244,029人	250,000人

広域・官民連携の強化

株式会社　おおすみ観光未来会議を設立（H30.８月）

＜具体的な取組＞

- **観光地域づくりに関する、地域内の多様な関係者の合意形成**
  →官民一体となった会議等の開催
- **地域内観光素材の磨き上げ**
  →各種モデルツアー造成
  （高速船、サイクリング、古墳など）
- **観光プロモーション活動の実施**
  →鹿児島空港内に観光PRブースの設置、大隅半島食フェアなど
- **薩摩半島の小中学校修学旅行受入手配**など
  →コロナ禍の旅行業界の動きへの対応（18校、1,097名受入予定）

高速船を活用した鹿児島市民ツアー(R1)

地域資源を生かしたツーリズムの推進

○平和ツーリズムの推進

・戦争遺跡の保存整備、戦争に関する資料収集、平和学習ガイドの養成・活用など

①戦争遺跡の整備経過

・川東掩体壕の整備（H27）

・串良基地跡地下壕第一電信室の整備（H27）

・野里国民学校跡地の整備（H28）

・笠野原飛行場跡地（JAどっ菜市場）の戦跡看板整備（R１）

②戦争に関する資料収集

・米国国立公文書館の資料収集（R１）

映像　31本
写真　1,051枚
文書　277部

※令和２年11月20日～12月６日の17日間
リナシティかのやで平和パネル展を開催

③平和学習ガイドの活動状況

区分	H29	H30	R１
件数	48	53	47
人数	2,017	1,337	2,083

④その他

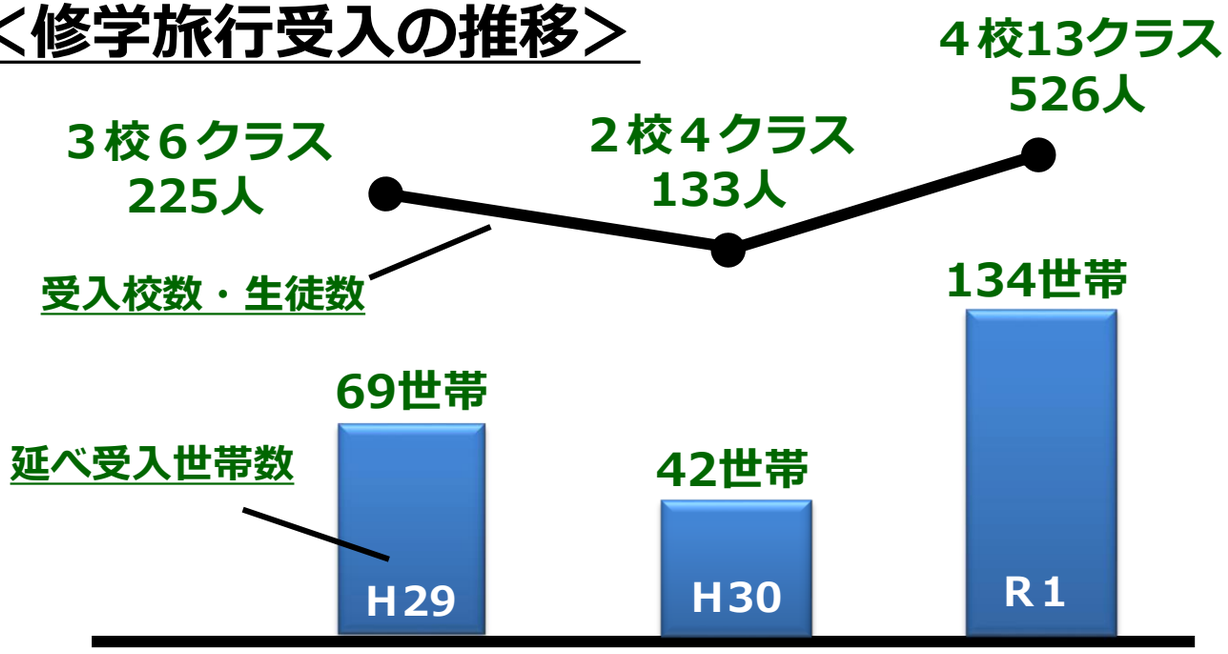
平和の花束との共催事業
「空がつなぐシンポジウム」

鹿屋基地の上空から見た
攻撃中の飛行機群
（S20.３.19　米軍撮影）

その他の地域資源を生かした観光の推進

○修学旅行（体験学習）等の誘客促進

＜修学旅行受入の推移＞



▲修学旅行生との入村式

○農家民泊の展開・拡充支援

「農家民泊開業支援補助金制度」創設等

＜農家民泊の宿泊実績＞

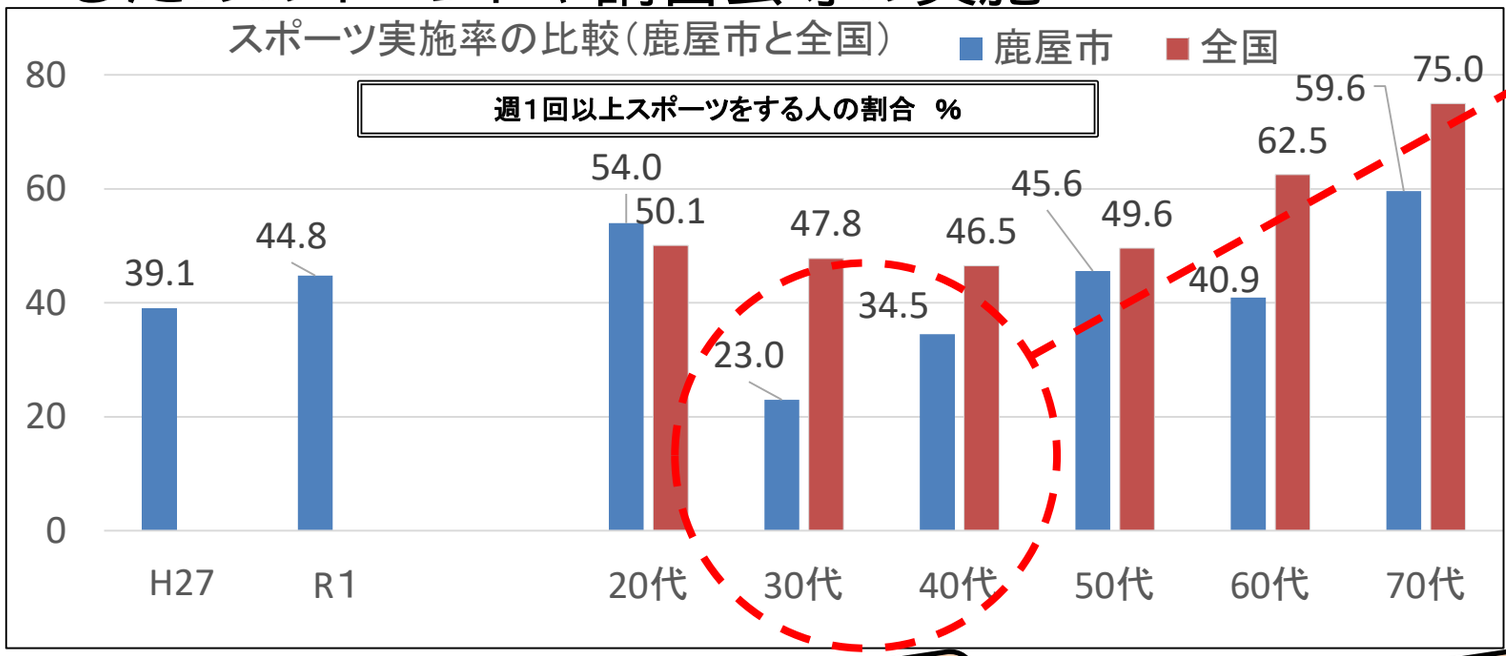
▼インバウンド向け農泊ツアー

鹿屋市の取組（分野別）

スポーツ

スポーツライフの推進

市民の誰もが、「いつでも・どこでも・いつまでも」気軽にスポーツに親しめるためのイベントや講習会等の実施



働き盛り・子育て世代の実施率が低い！

40歳代男性

運動したい気持ちはあるが、きっかけがない

30歳代女性

気軽にできる施設や、一緒にする仲間がいない

スポーツフェスタ inかのや

令和元年度初開催

かのやパラスポーツフェスタ

平成30年度初開催

はじめてのグラウンド・ゴルフ

出典：令和元年度鹿屋市民の運動・スポーツ活動に関する調査結果報告書、平成30年度鹿屋市健康づくり市民意識調査結果報告書

スポーツ施設の整備

◎　串良平和公園野球場・屋内練習場の整備

（平成28年1月：屋内練習場整備、平成30年8月：野球場リニューアル）

- プロ野球、社会人、大学等の野球部の合宿地としての活用

◎　霧島ヶ丘マウンテンバイクパークの整備（平成30年7月）

- マウンテンバイク教室の開催
- マウンテンバイカーズフェスの開催

串良平和公園野球場・屋内練習場の整備

マウンテンバイクパーク

スポーツ合宿まちづくりの推進

スポーツ合宿者数の推移（平成24年度～令和元年度）

平成24年度～平成30年度まで
7年連続県内トップの合宿者数

経済効果（R1）
2億3,000万円超!!

交流人口の増加による
地域活性化を推進!!

かのやスポーツコミッション設立（H28.6月）

合宿誘致に向けた取組	内容
かごしまスポーツ合宿セミナーの開催	福岡や関西地区などの大学生にPR
ソフトバンク（株）との連携	プロ野球選手の自主トレ誘致
スポーツ合宿奨励金	宿泊費を助成（※要件有）
各種測定分析トレーニング助言等	鹿屋体育大学スポーツパフォーマンス研究センターの活用

女子バレーボール合宿

鹿屋体育大学との連携

市民に大学スポーツを通じた地域サービスやスポーツ体験「する・みる・ささえる」を提供し、地域の活性化につなげる取組を実施（平成30年度から）

スポーツフェスタinかのや

◎市民が気軽に鹿屋体育大学の施設を活用するスポーツイベントの開催

- ・かのやエンジョイスポーツ
- ・カレッジスポーツデイ
- ・スポーツフェスタinかのや

かのやエンジョイスポーツ

カレッジスポーツデイ

かごしま国体に向けた取組

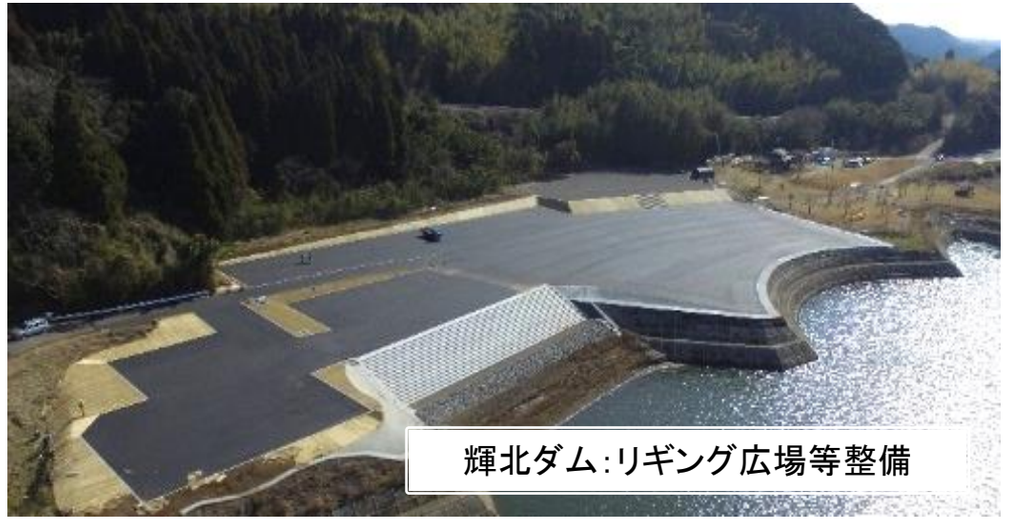
《会期の変更》2020年10月3日～10月13日⇒ **2023年 開催が決定!!**

※競技日程及び会場地は令和2年度を引き継ぐことを基本に開催予定

《本市での開催競技》 ボート、自転車ロード、バレーボール（成年女子）

《施設整備》 串良平和アリーナ（バレー会場）及び輝北ダム（ボート会場）を整備

串良アリーナ：照明LED化、床研磨



輝北ダム：リギング広場等整備

《市民による国体気運の醸成》 （運営ボランティア、ふるまいの実施、のぼり旗製作、国体推奨花の育成、絵画コンクール、モザイクアートの製作など）

モザイクアート

市民によるおもてなし

花いっぱい運動（歓迎シール）の準備

子育て

少子化の背景

若 い 世 代(結 婚 前 世 代)

家庭や仕事に対する価値観・ライフスタイルの多様化

結婚・出産への意識

核家族化の進展

育児への不安・孤立

子育ての経済的負担の大きさ

子育てと仕事の両立の負担感

<共働き世帯>
614万世帯(S55) ⇒ 1,245万世帯(R1)

未婚・晩婚化の進展

少子化の進行

結婚／妊娠から出産への支援

安心して産み育てることのできる環境づくり

●かごしま出会いサポートセンター 鹿屋出張窓口

鹿児島県が主催、毎月鹿屋市(ﾘﾅｼﾃｨかのや)でも登録・閲覧の場を提供

◎県内で約900人が利用
◎本市では56人(R1)が登録
⇒これまで市内の2組が結婚

●特定不妊治療費助成

年間あたり25万円～40万円を
通算5年間、治療費を助成

●特定不妊治療を受けた夫婦
●男性不妊治療を受けた夫に対して
（県と連携した取組で諸要件あり）

◎申請件数:104件(R1)
⇒うち、約5割が妊娠

●妊婦訪問・産後ケア

●妊婦訪問、産後サポート事業(助産師等)

特に平成28年度から
「産後うつ」への支援体制を強化

・保健相談センターに「すくすくルーム」を設置して妊産婦を専門的に支援
・医療機関との情報共有による迅速な対応

◎母子相談件数:990人(R1)

産後の支援

安心して子育てができる環境づくり

●子ども医療費助成

保険診療に係る自己負担額の助成

◎助成総額：約3億8千万円（R1）

●中学校修了までの子ども
入院・外来ともに全額助成（要申請）

●住民税非課税の未就学の子ども
病院での窓口負担を無料

●チャイルドシート無料貸出

新生児の時期に使えるﾁｬｲﾙﾄﾞｼｰﾄの無料貸出（満1歳を迎える月末まで）

◎貸出件数：年間で341件（R1）

●かわいい孫への贈り物

満1歳までの乳児に対して、おむつ助成券を交付（12,000円上限）

◎申請件数：1,004件（R1）

●赤ちゃんの駅の設置

公共施設や市の各種イベントでの赤ちゃんの駅（授乳やおむつ換え等ができるスペース）の設置

未就学期の支援

小学校入学前まで様々な支援で、子育てをサポート

●子育て交流プラザ

現在、予約制などコロナ対策を講じて
開館。(県民健康プラザ内)

事前予約制、週3日(火木土)
1日40組(午前・午後各20組)

●幼児教育・保育無償化

令和元年10月から開始
(令和2年度:約7億円)

3～5歳児:保育料無償
0～2歳児:非課税世帯の保育料無償

●保育サービスの充実

保護者の病気や冠婚葬祭、仕事の都合など諸事情で利用可

●一時預かり(31施設)
◎延べ約8万1千人が利用

●休日保育(1施設)、延長保育(41施設)
◎延べ約1万8千人が利用

保護者の入院等の場合は

●子どものショートスティ(2施設)

就学期の支援

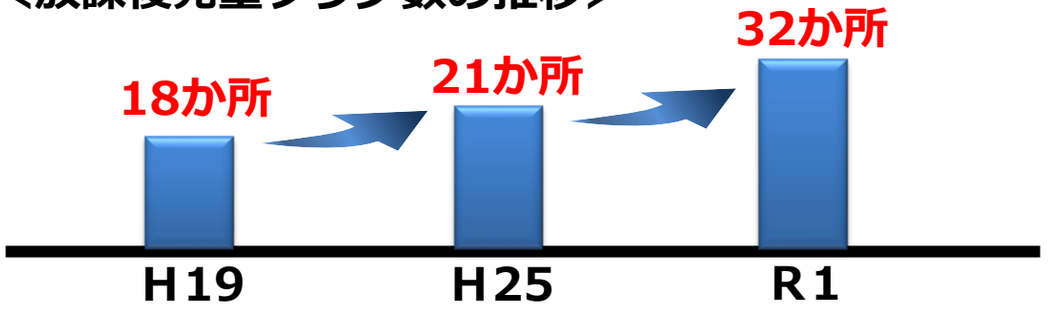
小学校の就学期も様々な支援でサポート

●放課後児童クラブ（小学生）

放課後、仕事をしている保護者の帰宅までの間、保育を実施

◎市内32箇所の児童クラブ（R1）
◎約2千人の児童が登録・利用

＜放課後児童クラブ数の推移＞



●病児保育

児童が病気の際、保護者の仕事等の事情で、家庭で保育できない場合に利用

●事前予約のうえ病院受診後に利用可
●月曜日から土曜日まで（土曜日は午前中）

◎延べ利用者数：802人（R1）

●ファミリーサポートセンター

育児・家事の援助を受けたい人がサポート会員による援助を利用

●児童の送迎や一時預かりなど

◎利用会員：346人　ｻﾎﾟｰﾄ会員：291人
◎利用料金：平日7時～19時 1時間 600円
（それ以外 1時間 700円）

障がい児・その他の支援

●早期発見への取組

〇母子相談、乳幼児健診での面談
〇保育園等への巡回訪問

●早期療育への取組

〇通所支援
・児童発達支援
・放課後等デイサービス

〇相談・訪問支援
・重度障がい児等の居宅での支援

〇医療的ケア児への支援
・支援コーディネーターの配置

●各種相談支援（各機関と連携）

〇家庭児童相談（子どもの養育・虐待）
〇教育相談（しつけや教育）
〇障がい児相談（子どもの発達）
〇女性相談（離婚やDV）など

●子育て便利帳

●妊娠したら
●出産したら
●子どもを預けたい
●相談したい
●もしものときは
●お出かけマップ など

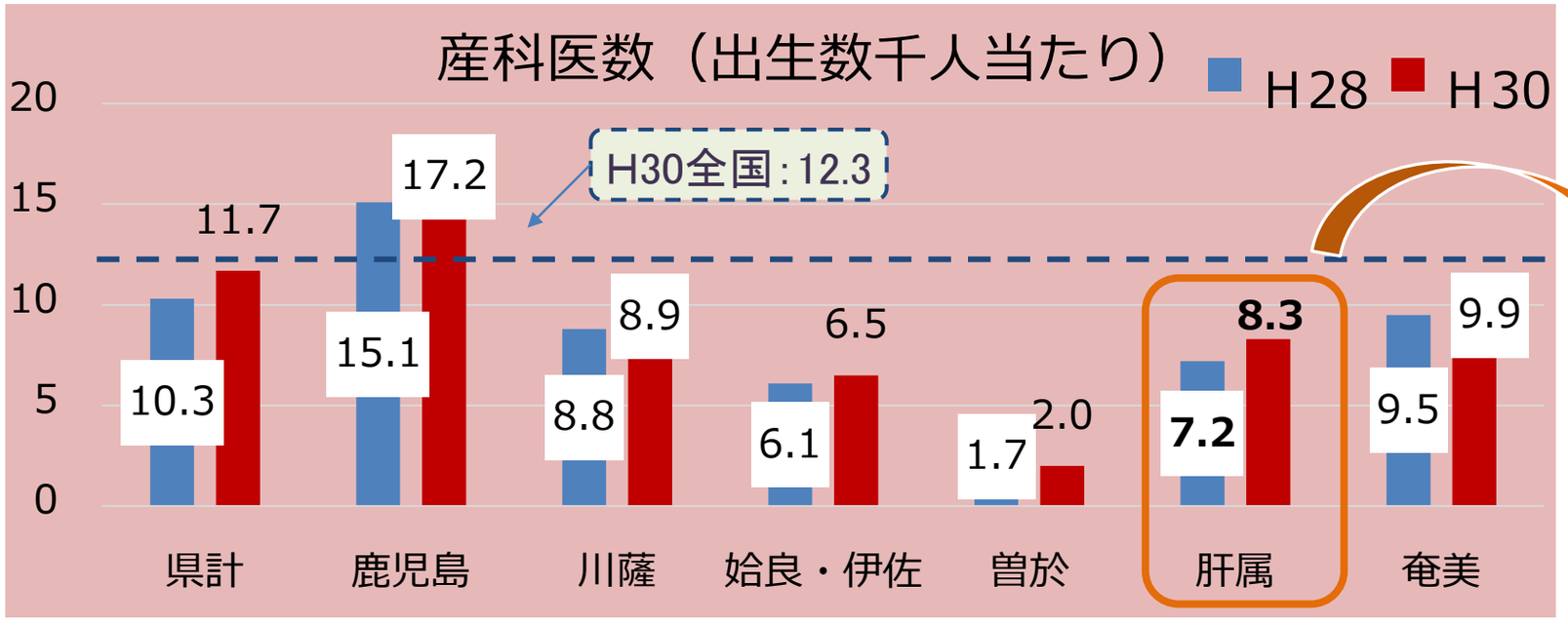
広域的な医療体制（産科医等）の確保

「子どもを産み育てやすいまち」に向け、
産科医療機関・産科医師等の確保

大隅4市５町で協議会を設置し、産科医確保のため県等への要望活動を毎年実施。

○産科医数　6人(H26) ⇒ 8人(R2)

区分	H26	R2
産科医師(常勤)	６人	８人
助産師確保(奨学資金助成)	５年間で延べ６名を確保	



引き続き、産科医等の確保に取り組む

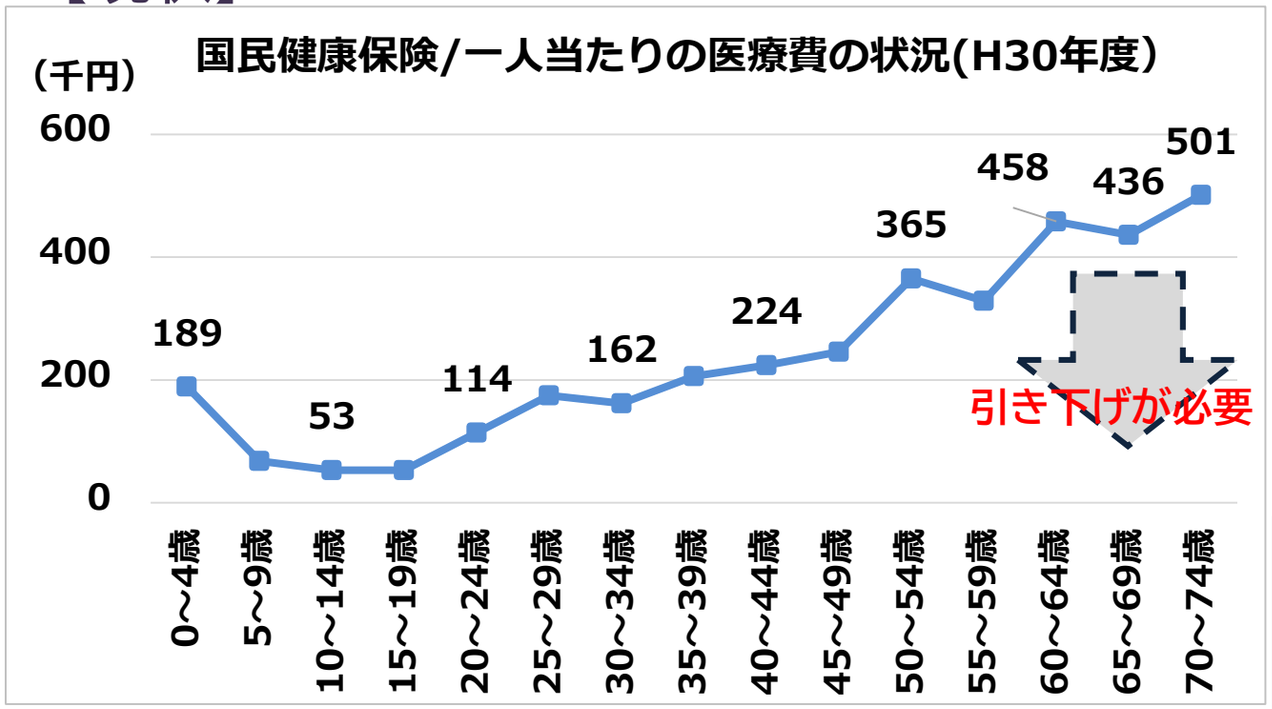
出典：H28・H30医師・歯科医師・薬剤師調査

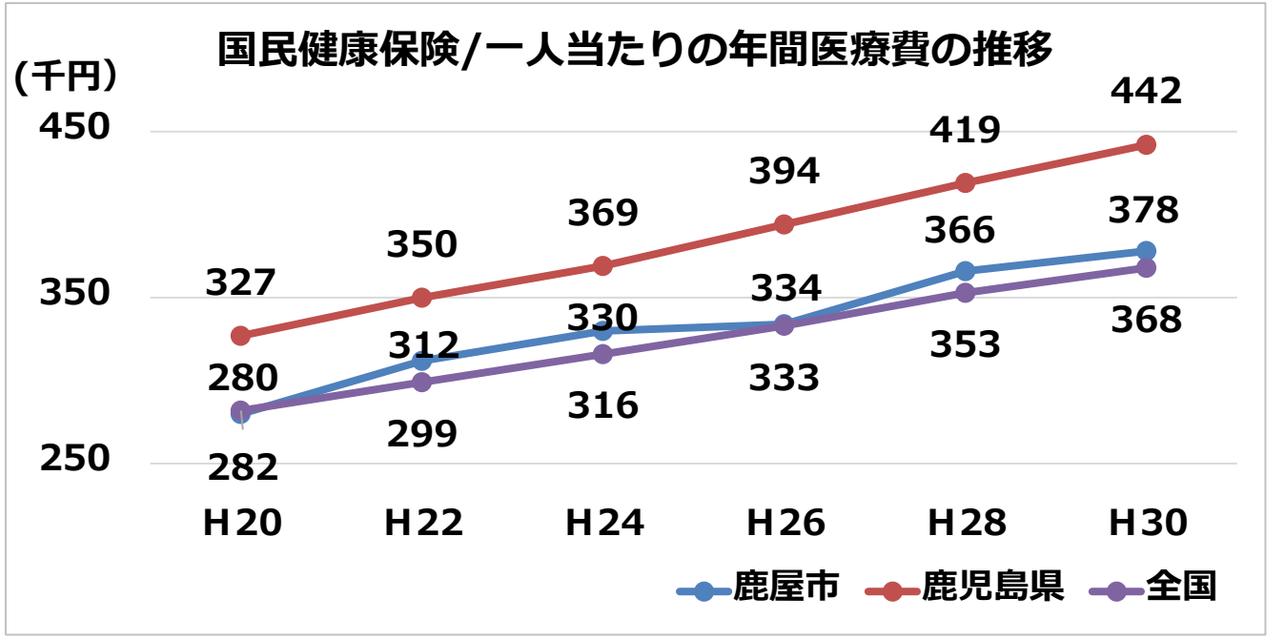
鹿屋市の取組（分野別）

健康づくり

医療費からみる鹿屋市民の現状及び対策

【現状】





【基本方針】

○人生100年時代の安心の基盤は「健康」

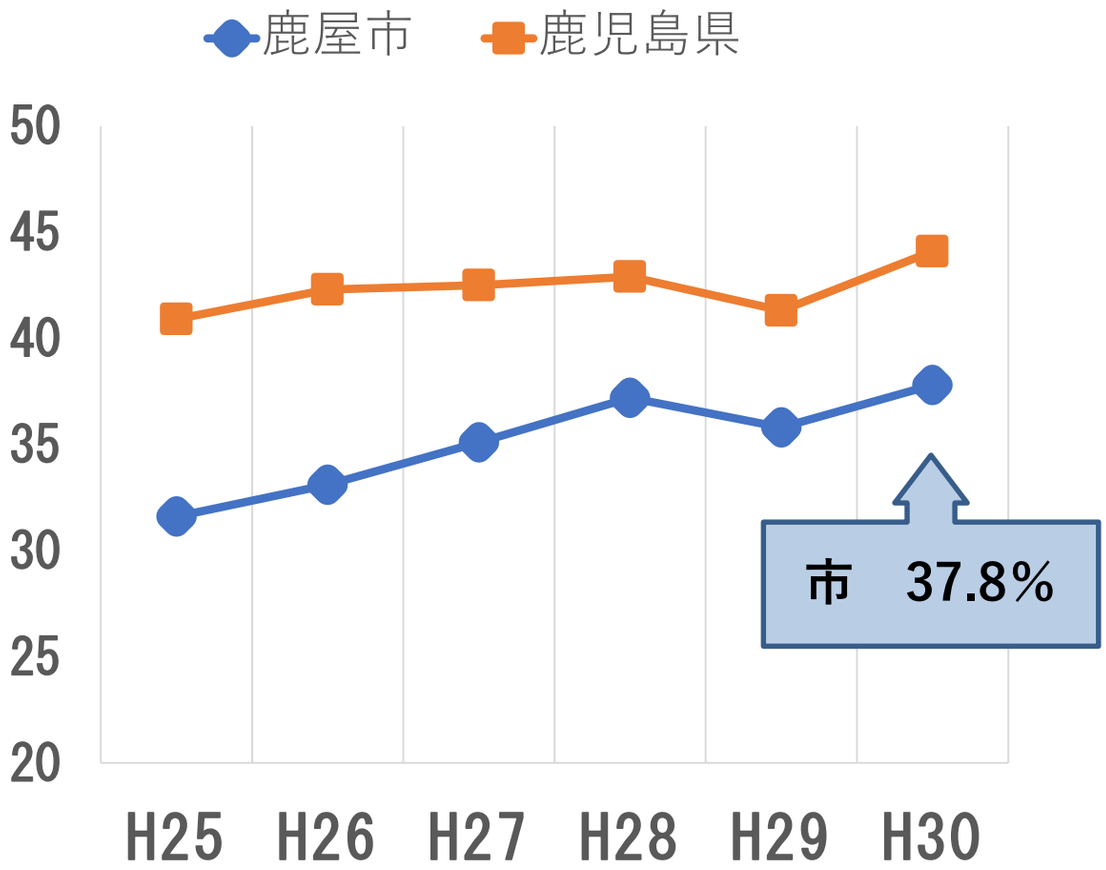
○日頃から規則正しい食事や運動、健診受診などを推進

重点3分野

①全ての市民の健やかな生活習慣形成
②疾病予防・重症化予防
③介護予防・フレイル対策、認知症予防

特定健康診査の受診状況

特定健康診査受診率の推移

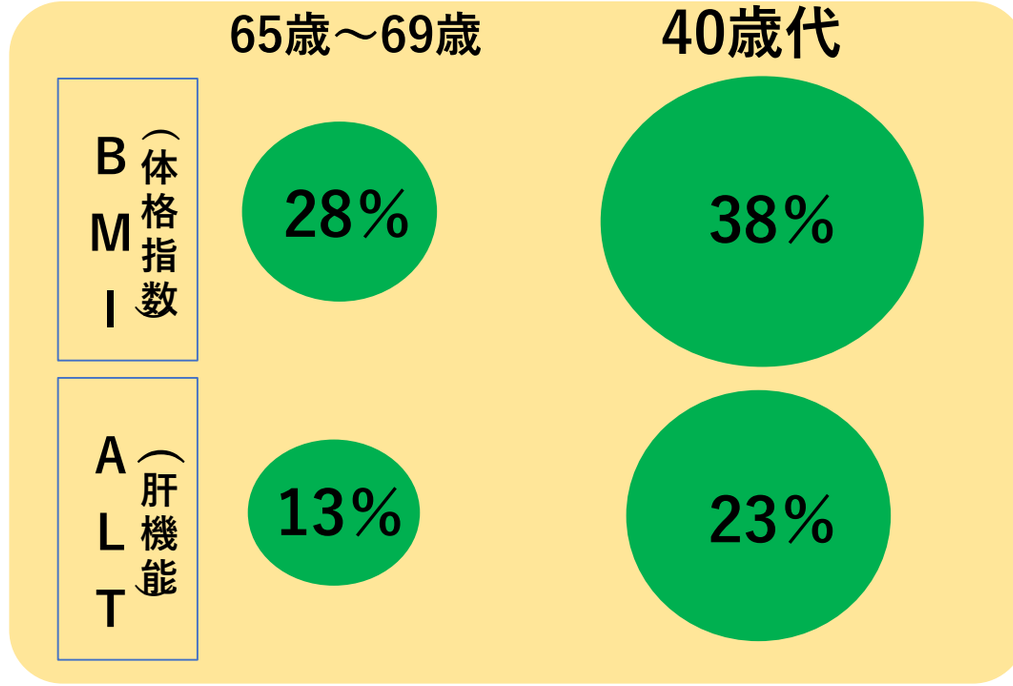


本市の受診率は県内19市中16位

40歳代男性の健診結果

腹囲オーバー　6割

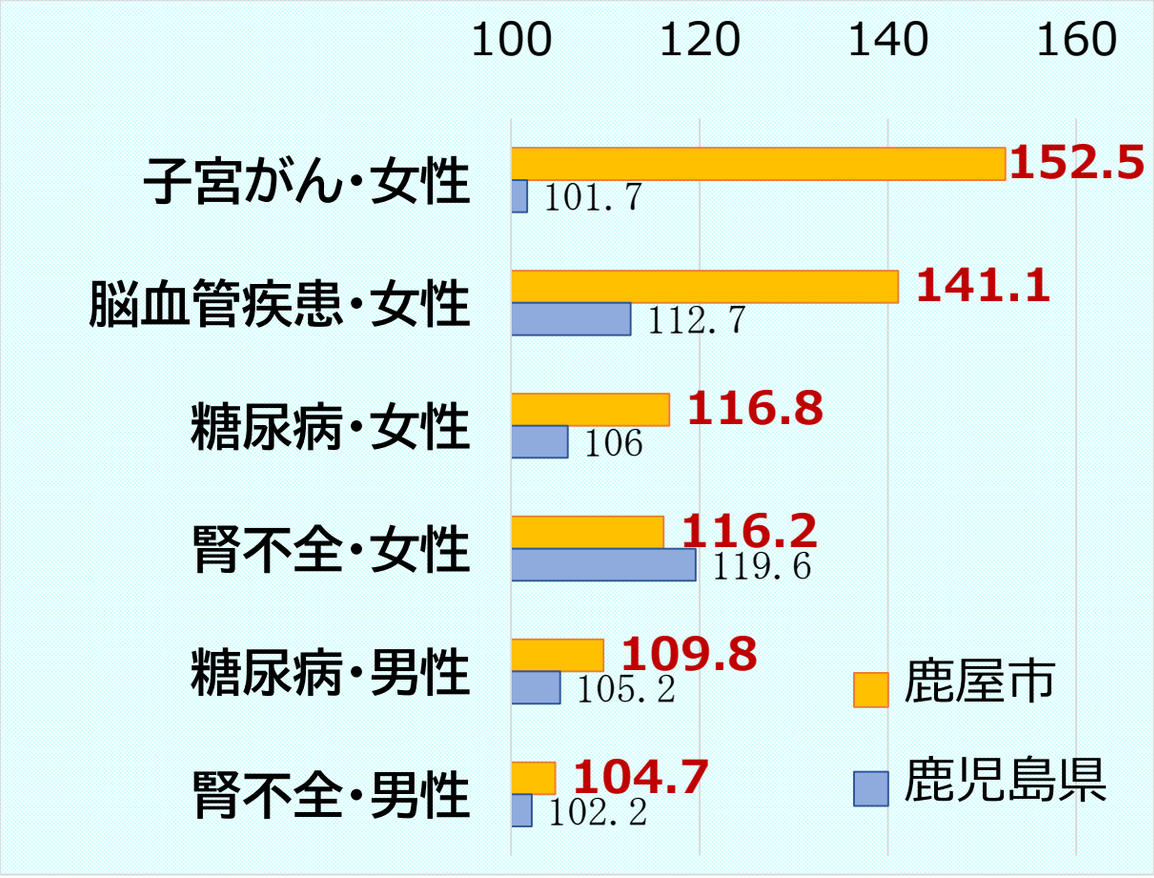
保健指導が必要な人の割合（男女）



30歳代・40歳代からの健康に対する意識づけが大切

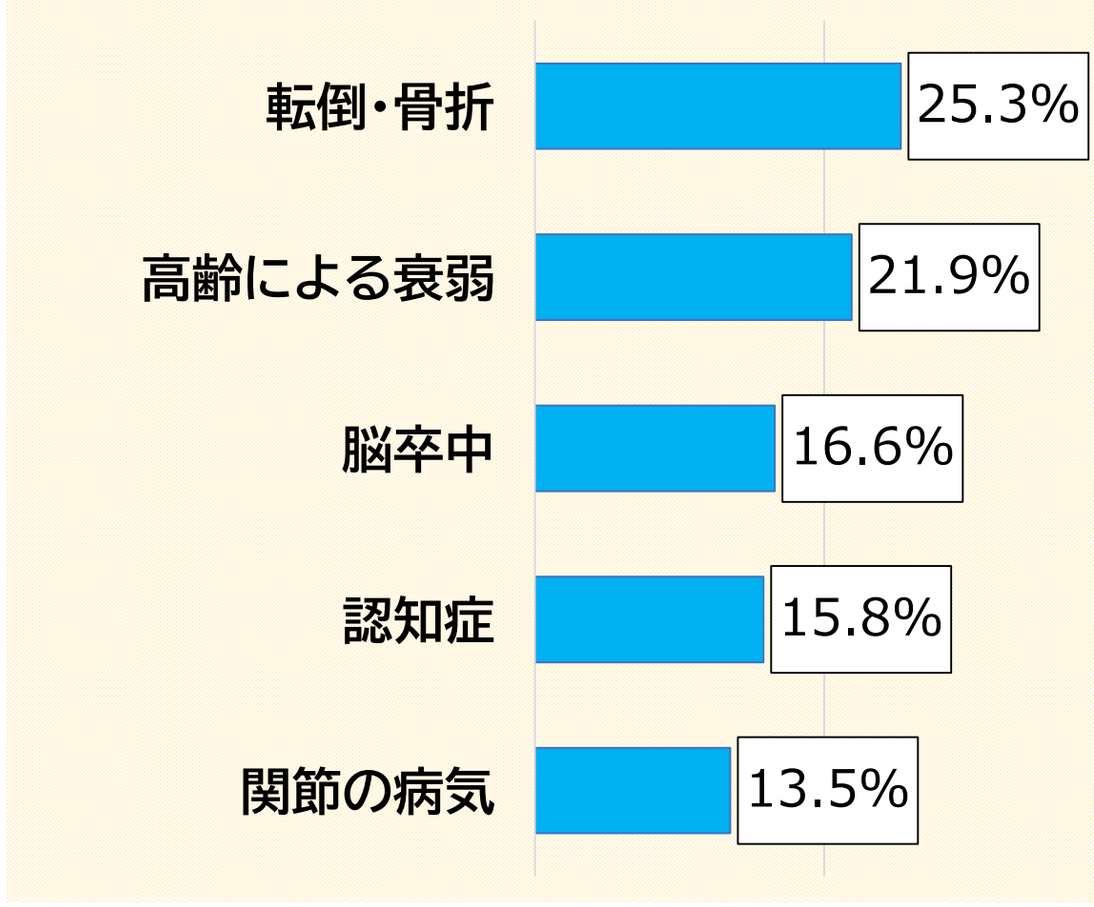
死亡要因別標準死亡比・要介護要因

主な死亡要因に係る国・県との比較
※ 国を100とした場合



本市の女性は特に、子宮がん、脳血管疾患、糖尿病の死亡割合が全国平均より高い。

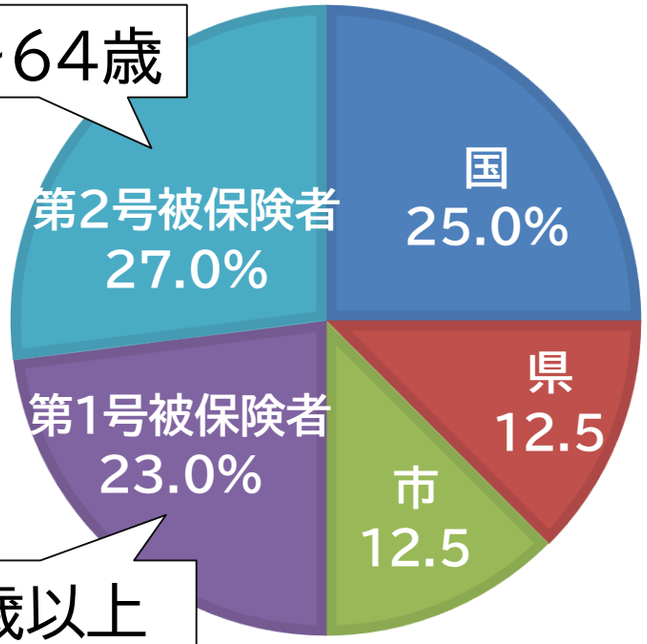
介護が必要となった主な要因



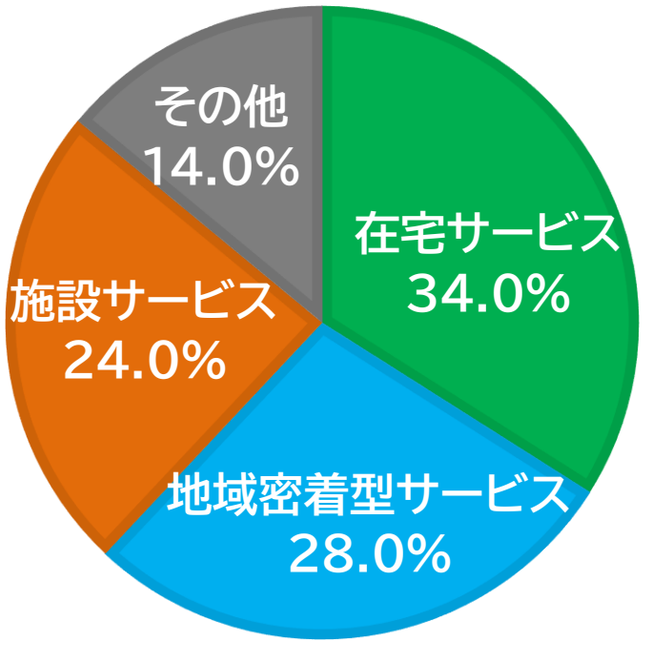
転倒・骨折が約4人に1人、脳卒中など生活習慣病によるものが約3人に1人　など

介護保険事業

歳入（財源）



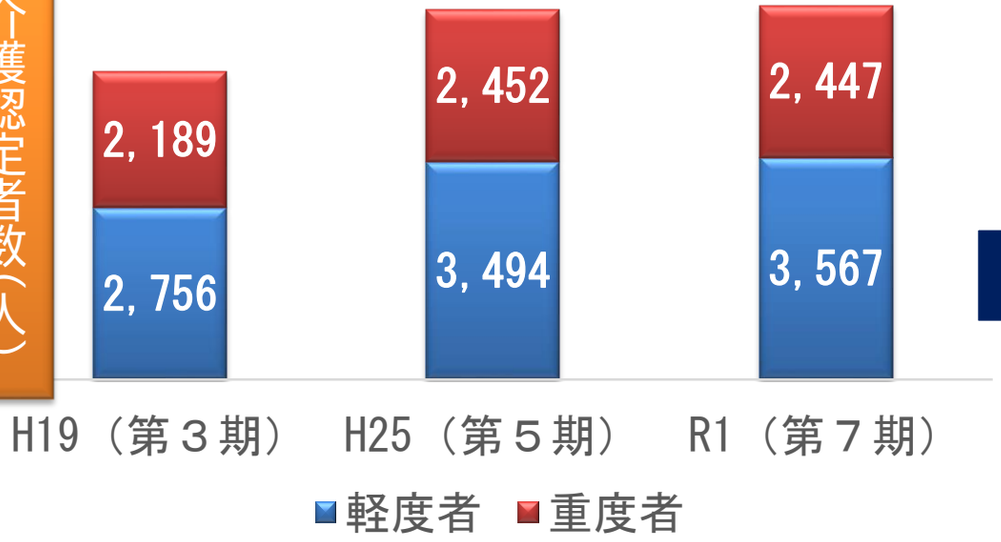
令和元年度
約110億円

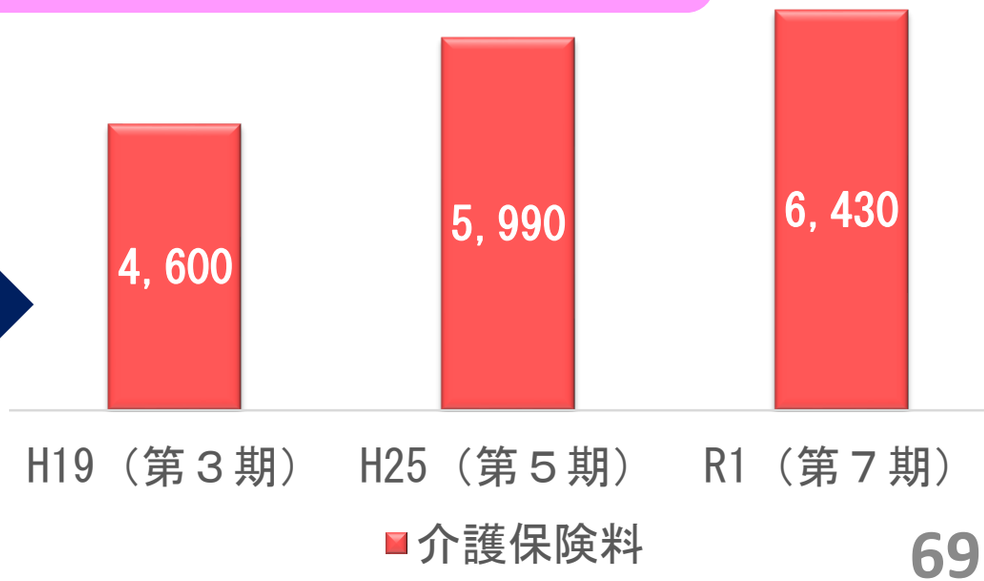


歳出（事業費）

要介護認定者の増加が介護保険料に影響
⇒介護予防・フレイル予防の取組推進が必要！！

要介護認定者数（人）





介護保険料（円）※基準額

健康寿命延伸、受診率の向上

若年層からの健康教育、子育て世代や働き盛り世代の受診機会の提供

30代健康きっぷ事業

- 無料健診（土日）
- 健康教室
- 増進センター施設利用券の配布

今年度より市が実施する健（検）診は予約制を導入。待ち時間を短縮するなど、受診しやすい体制を整備

区分	H29（人）	H30（人）	R1（人）
30歳代健診	283	338	400

健康寿命延伸、受診率の向上

女性の健康づくりを支援

本市の女性は、子宮がん、脳血管疾患、糖尿病の死亡割合が高いため、女性が受診しやすい健（検）診体制を整備。

【これまでの受診者数】

区分	H20(人)	H26(人)	R1(人)
子宮がん検診	3,601	4,456	5,423
乳がん検診	2,676	3,920	5,057

より受診しやすいよう健診を追加

○レディース健診（R2新規）

⇒女性限定・包括的に健（検）診を実施

健康診査・腹部超音波検査・がん検診（胃・大腸・肺・子宮 ・乳）

乳がん超音波検査・骨粗しょう検診

※子宮がん検診20歳以上、それ以外は40歳以上が対象

高齢者の健康づくり①

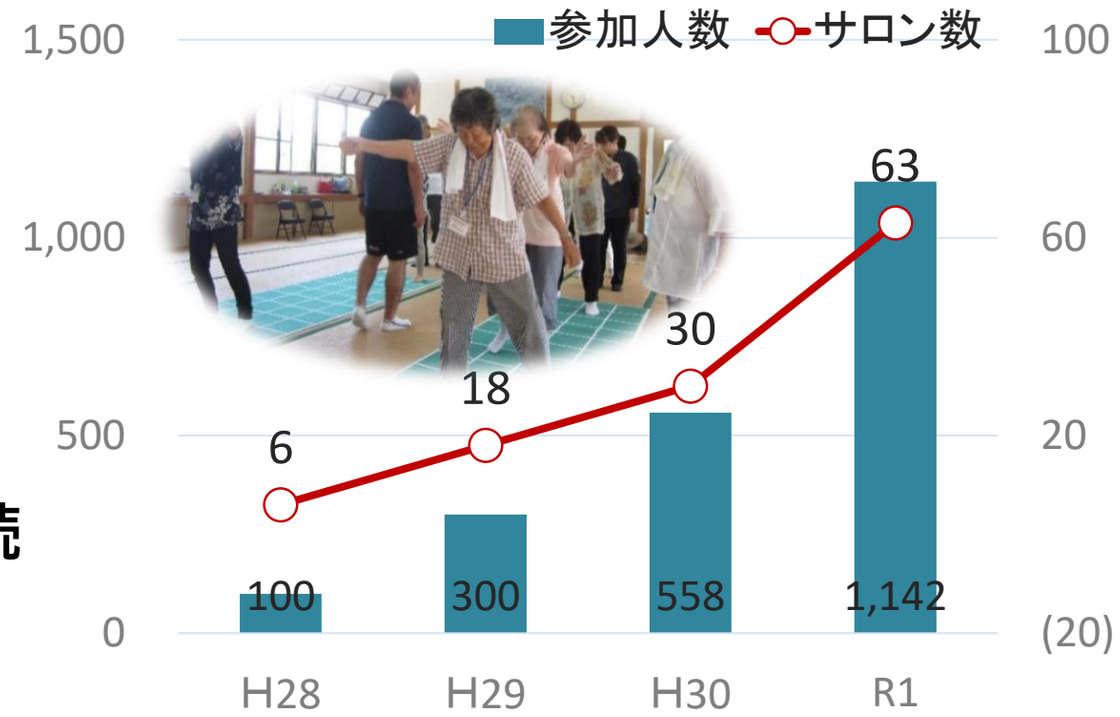
通いの場（サロン）の普及拡大

＜運動サロン＞

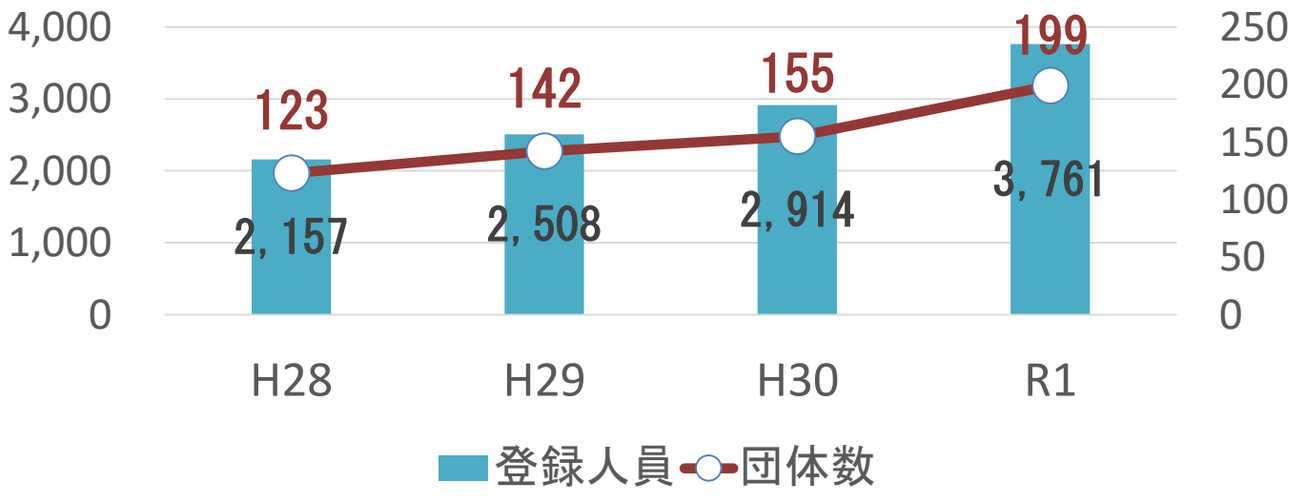
〇鹿屋体育大学等の地域資源を活用

〇高齢者が身近な場所に自主的に集い、運動を行うサロンの育成

〇高齢者自らが自発的な活動として継続できるよう支援



＜その他サロン＞　茶話会やレクレーション等



サロンへの参加者を増やす取組

鹿屋市高齢者サロン等加入促進事業

高齢者のサロン活動等を行う3人以上のグループに対し、新規加入者1人につき4000円を助成し、活動を支援（上限5万円）

高齢者の健康づくり②

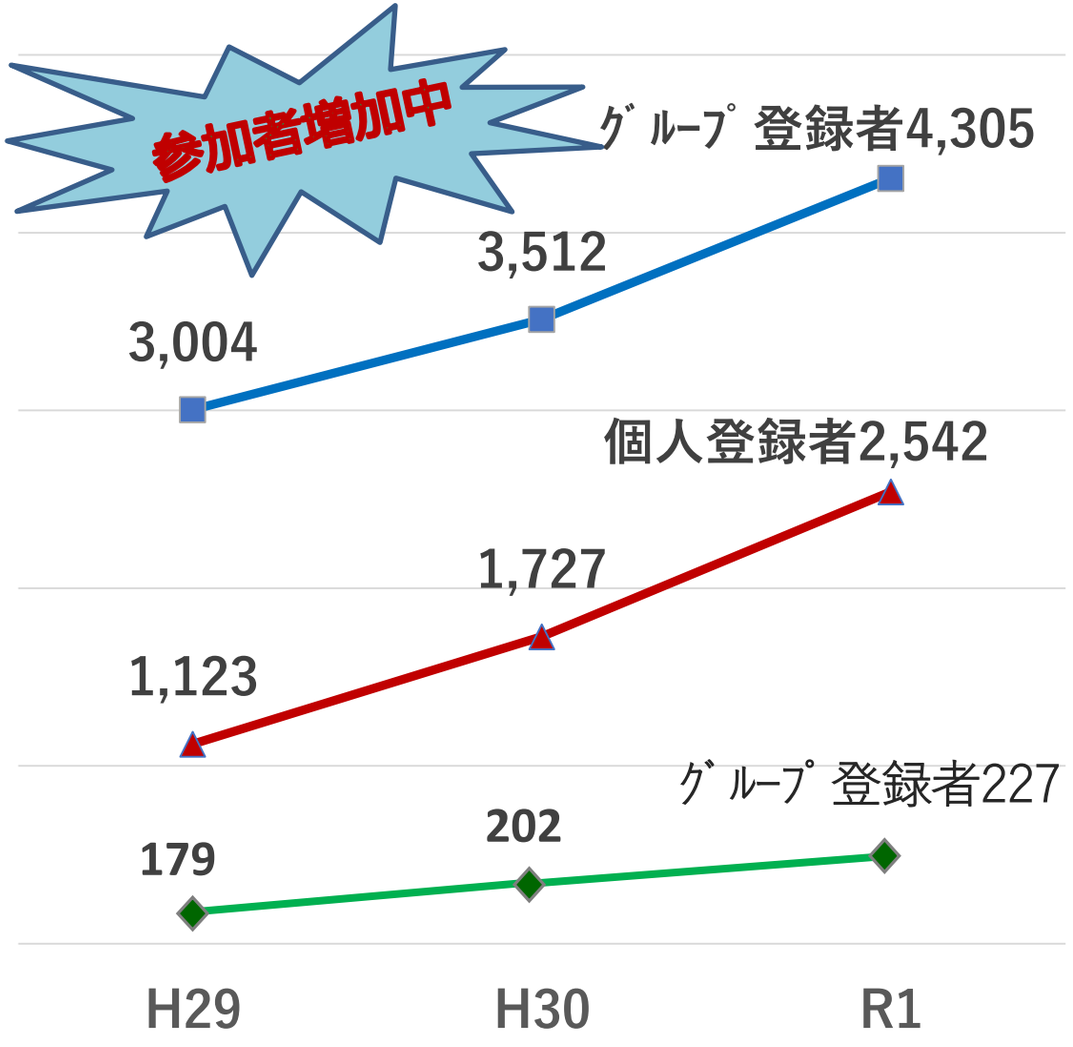
個人やグループでの健康増進やボランティア活動等を
ポイントで応援(現金や特産品等に交換可能)　＜県補助事業＞

個人

高齢者元気度アップ・ポイント事業

グループ

子ども食堂もポイントアップ！
元気度アップ！推進事業



鹿屋市の取組（分野別）

地域づくり

地域防災　ー近年の災害状況ー

災害名	気象状況	主な被害の状況
平成28年台風16号	最大瞬間風速40m 総雨量341㎜	**高隈・輝北地区で橋梁の流失や損壊が発生** 家屋被害100棟、道路被害432箇所、農地被害90箇所
平成30年台風24号	最大瞬間風速34m 総雨量401㎜	**吾平地域で広範囲な浸水被害が発生** 家屋被害60棟、道路被害293箇所、農地被害106箇所
令和元年　７月豪雨	総雨量1,014㎜ 時間雨量66㎜	**輝北地域で大規模な土砂崩れ等が多数発生** 家屋被害93棟、道路被害475箇所、農地被害114箇所
令和２年　７月豪雨	総雨量1,709㎜ 時間雨量109.5㎜	**新川、祓川、串良地区等で浸水被害が発生** 家屋被害242棟、道路被害512個所、農地被害163個所

○令和2年7月豪雨の状況

※観測史上最大の時間雨量109.5ミリを観測

▲新川地区の浸水被害

▲5号排水路の状況

地域防災　－市民の皆様等からの善意－

◎　義援金等の状況

名称等	金額
各種団体等からの寄付	7,349千円
義援金箱	183千円
ふるさと納税	4,663千円
義援金県配分委員会	35,700千円
合計	47,896千円

プロゴルファーからの寄贈
小田孔明プロ（左）、出水田大二郎プロ（右）

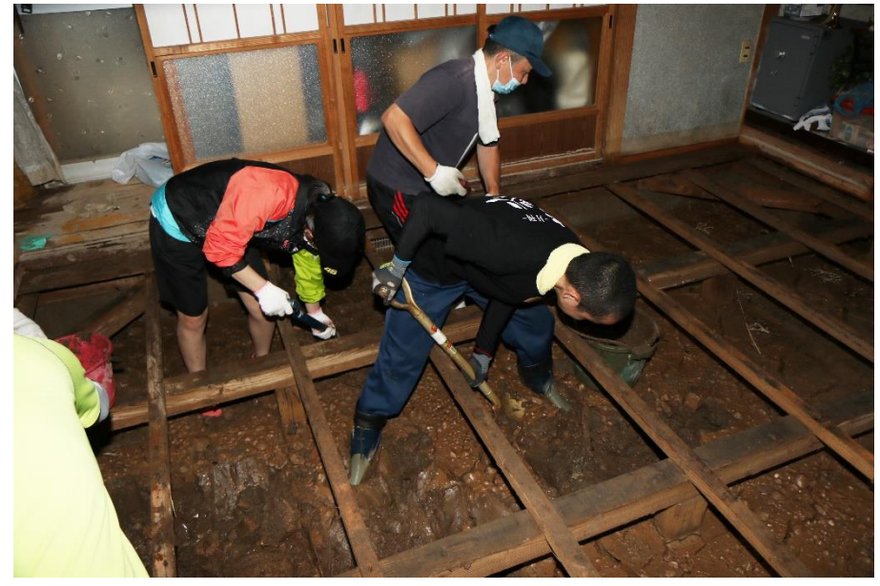
生活の拠点（住家等）、店舗が被災した方へ見舞金として給付

◎ ボランティア活動

市内外からボランティア活動への
参加者が集結 ⇒ **広がりを見せた絆の輪**

古江地区	祓川地区	串良地区	天神地区	計
657人	7人	57人	52人	773人

※7月11日～27日集計



▲古江地区でのボランティア活動

地域防災　ー災害に強いまちづくりを目指してー

＜総合雨水排水対策の取組＞

■1期計画（平成26～30年度）

◎　札元地区の国道269号沿線や、上野・今坂地区の市道沿線など23冠水箇所を改善

◎　5号排水路（笠之原地区）の壁（へき）かさ上げ

◎　公共・民間開発による雨水の一時貯留施設の設置　　など

■2期計画（令和元～5年度）

◎　幹線排水路等の整備など「排水対策」

◎　公共施設を活用して、雨水を一時貯留する「流出抑制対策」

◎　5号排水路の「負荷軽減対策」の調査・研究など

▲寿8丁目 排水路整備状況

地域防災　ー災害に強い地域づくりの推進ー

○市民の防災意識の向上

○自分の命は自分で守る「自助」を高める取組

新防災マップを全戸に配布

・拡大マップを添付した見やすいマップを全戸に配布

防災マップ活用講座の開催

・防災マップの見方、使い方を詳しく説明

○地域で助け合う「共助」を高める取組

防災出前講座

自主防災組織活動助成金

地区防災計画の作成支援

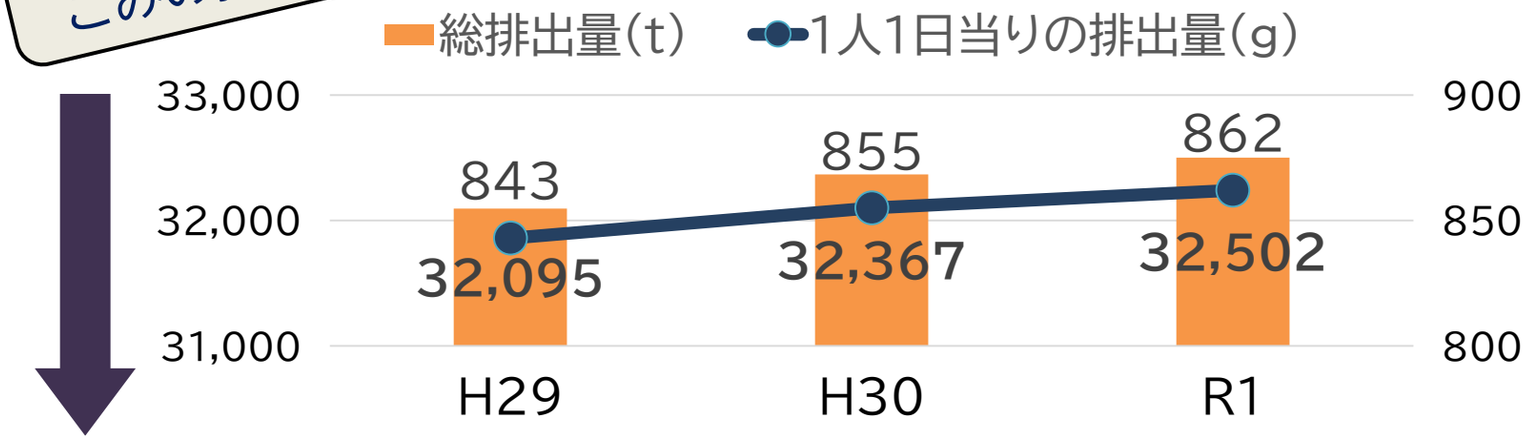
地域防災リーダーの育成

・町内会で行う自主防災活動を
　支援し、地域の防災力を高める。

身近にできる環境対策

上昇傾向にある
ごみの排出量

ごみの総排出量（R1）	32,502t
ごみ処理全体経費	約12億8千万円



より一層のごみ減量・再資源化を進める必要がある

※一人一日当たりごみを100g減量すれば、約1,900万円の効果

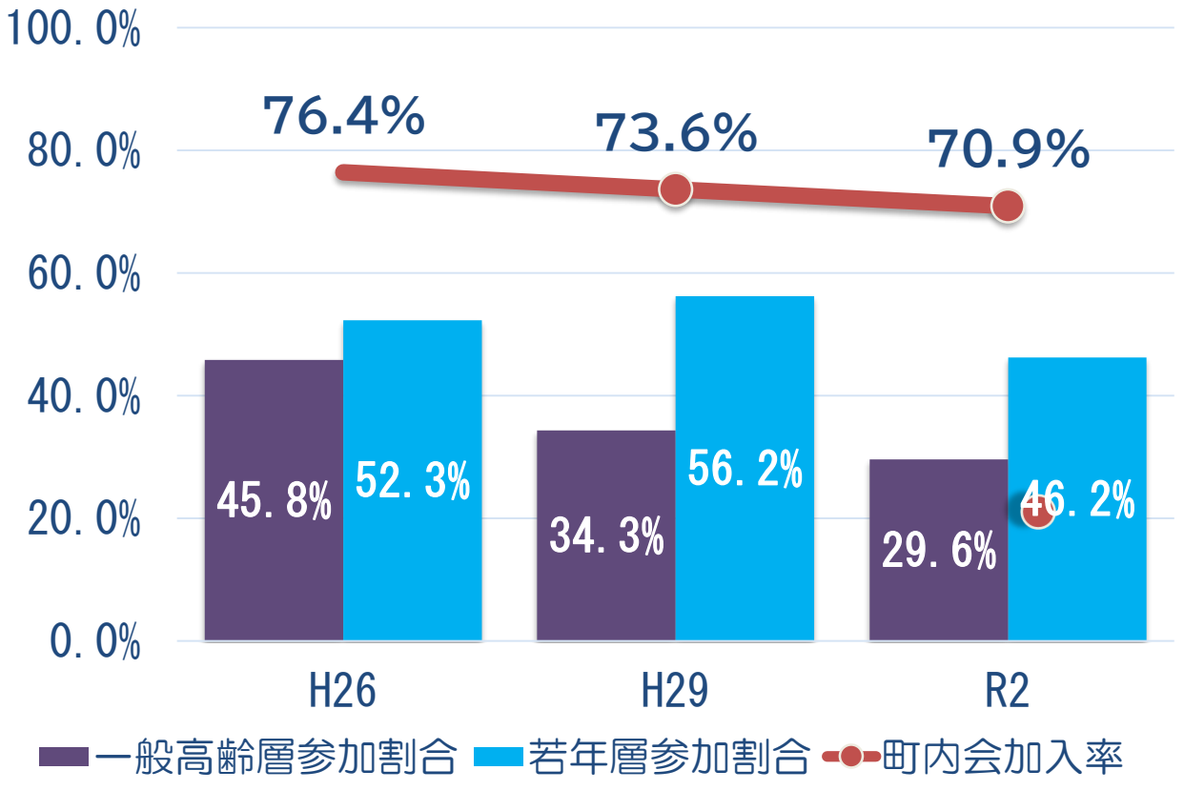
かのや 3キリプロジェクト
使いキリ 水キリ 食べキリ
3キリ
生ごみ減量大作戦!!

			目標
食べ残し	831t	食べキリで半減	415t
直接廃棄等	1,226t	使いキリで半減	613t
生ごみ	3,838t	水キリで1割減	384t

2030年までに
1,412t削減!!

食品ロス削減・生ごみの水切り等によるごみの重量削減（3キリプロジェクト）

町内会活動



つながりによる「支え合い」「生きがい」づくり

- 活動への理解を高める若者や子育て世帯への呼びかけ
- 福祉、新たな困りごと、外国人への対応

地域の暮らしに根付いた様々な町内会活動

防犯

伝統芸能

防災

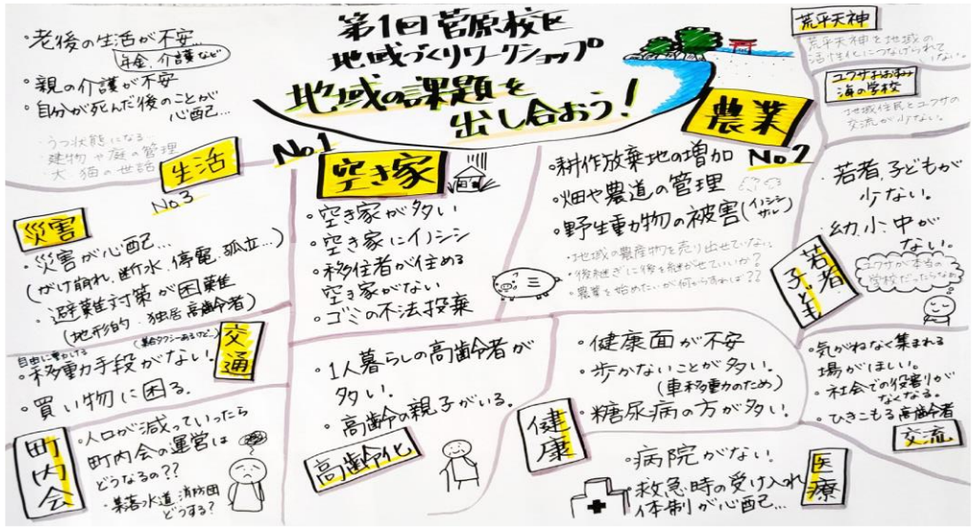
交流

環境美化

地域運営組織

全世代・全員が活躍する「生涯活躍のまち」づくり

ワークショップ
（地域づくり話し合い）



- 町内会のほか、団体や事業所、若者など多様な住民が参加
- 地域課題の解決の取組や地域資源を活かした地域づくり

交流・居場所
活躍・しごと
住まい
健康

コミュニティ協議会：高隈・吾平・細山田など

【高隈地区コミュニティ協議会の活動内容】
・復興祭　・たかくま産業市　・石蔵の活用
・ドライブサロン　・たかくままち歩きマップ作成
・山菜弁当　・お田植え行事

地域の支え合い活動

地域ボランティア活動

知恵・アイデア・行動力が地域課題を解決

○川東町女子会

女性町内会長誕生を
きっかけに、地域への恩返し活動を展開

具体的な取組（一例）
クリーン＆ウォーキング
一般向け無料食事会
荒廃竹林の整備活動 ⇒竹炭を作って販売

令和2年度「あしたのまち・くらしづくり活動賞」

振興奨励賞受賞!!

有償ボランティア活動

ゴミ出し、簡単な裁縫、電球交換、掃除、庭作業など簡易な家事を有償で支援

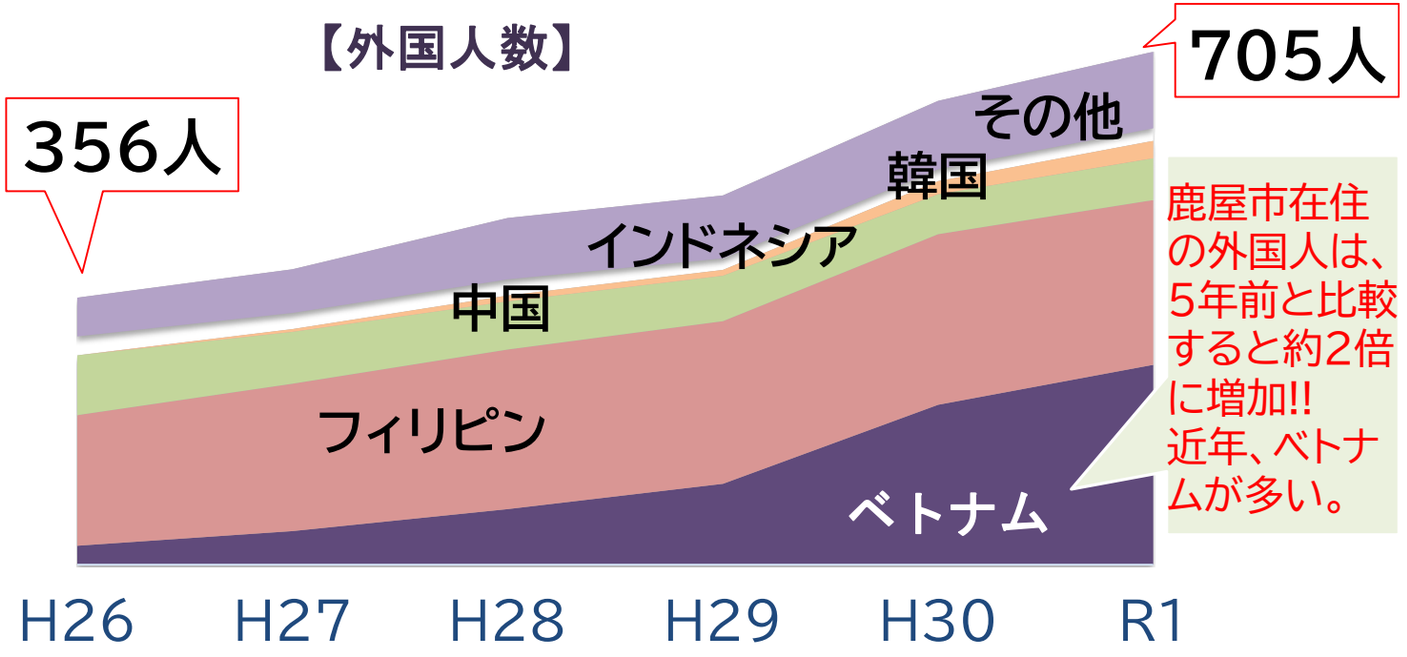
○助ける側も、助けられる側も気を
使わない関係（＝有償）

【市内有償ボランティア組織例】

H30年5月	泉ヶ丘きばいもんそ会
H30年9月	高須たすけあい隊
R元年6月	川東見守り隊有償ボランティア
R元年7月	寿3丁目きばいもんそ会

高齢者による社会参加の優れた取組として内閣府から表彰

多文化共生の推進



鹿屋市在住の外国人は、5年前と比較すると約2倍に増加!!
近年、ベトナムが多い。

世界ワクワクまるごとフェスタ

世界の踊りや茶道等の文化体験、日本語弁論大会を開催

日本語教室

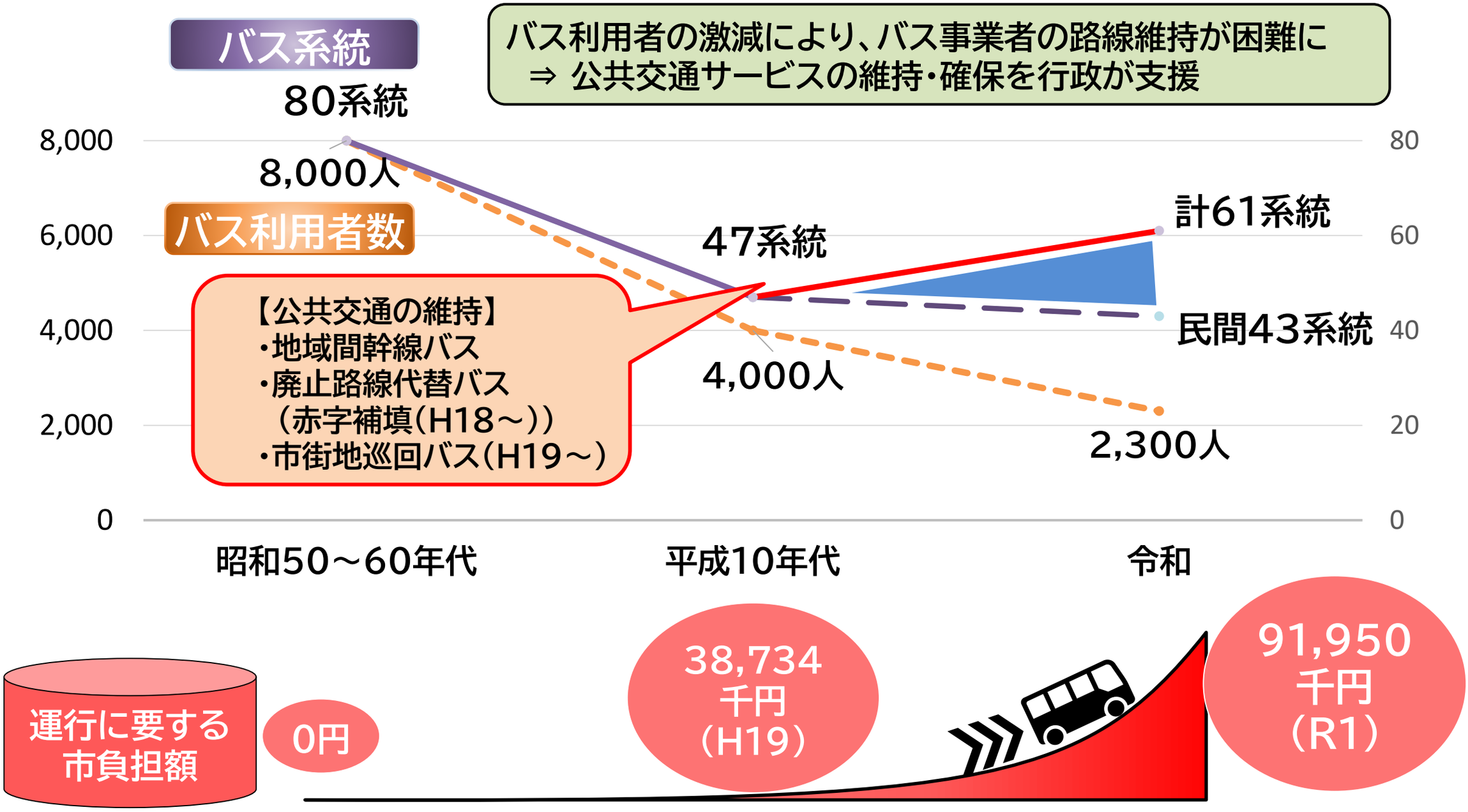
民間団体「あいうえおおすみ」の活動を支援

生活便利帳

市の手続きを英語・ベトナム語等4ヶ国語で紹介

地域の人々との親善・交流

交通事業の変遷



【資料】国土交通省自動車局「皆で地域交通をつくるための各サービスの改善」
鹿児島交通（株）鹿屋支社、鹿児島県統計年鑑、九州運輸局「九州統計情報」

「公共交通」の現状と取組

【バス路線の維持】

- 利用者の減少
- 運転手の高齢化と人手不足

【バスの利用促進】

1便当たりの利用者数

くるりんバス（16路線）

4.5人

乗合タクシー（1路線）

1.8人

キャンペーン

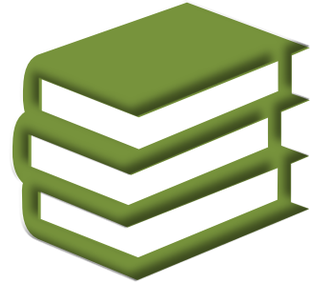
- 小中高生
  フリーパス券（８月）
- 敬老の日　高齢者
  一週間無料（９月）

【公共交通を補う多様な移動支援】

高須地区実証実験

- 電気自動車（時速20km）
- 町内会が運営
- 民間が車両を提供

教育



確かな学力の向上

「授業力の向上」を中心に据えた実践研究

県総合教育センター提携校（鹿屋小・鹿屋中）に指定

〇両校でのオープンスクールの実施により
多くの教員が授業改善について学ぶ（H30～）

（鹿屋小学校の外国語公開授業）

【期待される効果】
・教職員がよい授業を展開することで、子どもたちは楽しい授業を受け、学力をつけることができる。

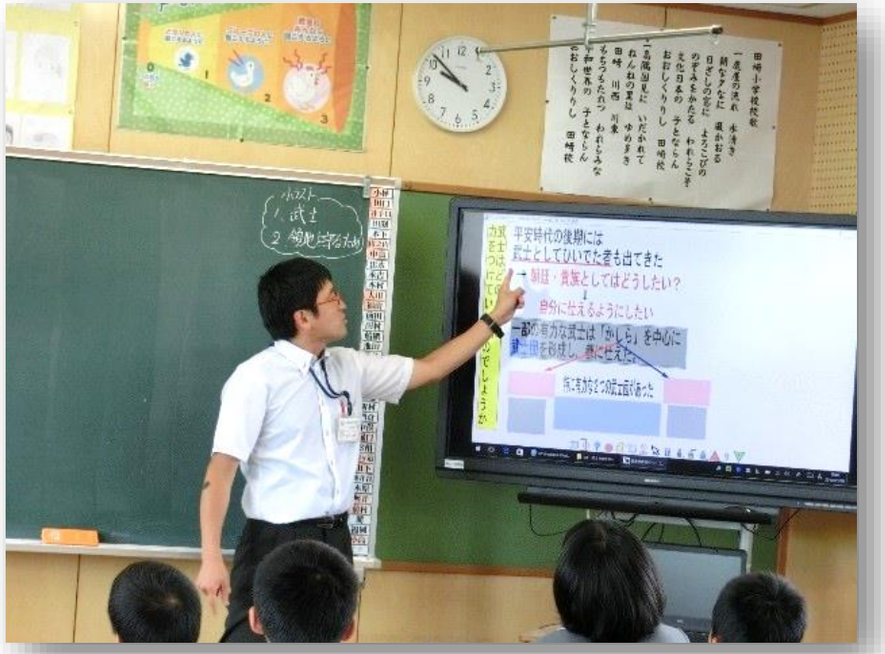
・鹿屋小・中学校が鹿屋市及び大隅地区の実践研究の中核となる学校となり、多くの教職員がともに学ぶ場を提供できる。

◇「新しい時代にふさわしい学校づくり・教育研究実践」

ＩＣＴ教育の充実

【ICTに取組む背景・目的】
・双方向の一斉授業が可能、一人ひとりの学習状況に応じた個別学習が可能
・自分の考えを発信し、多様な意見に即時に触れられる
・距離・場所を問わず、協働的な学びが可能

○全小中高学校普通教室に電子黒板タブレットを整備
・電子黒板…小学校280台、中学校106台、女子高29台
○全小学校プログラミング教材（180台）の導入
○全小中学校児童生徒用タブレット1人1台、計10,564台の導入（今年度末）



◇ 電子黒板を活用した授業の様子

◇ ペッパーによるプログラミング教育

英語教育の充実・強化

○使える英語の習得を目指して

H17から特区として小1から英語教育を充実

（重点の取組）

小 英語指導講師やALTを活用したコミュニケーション能力

中 英検の3級程度の英語力の育成

目標50%　現状37.5%

◇ 鹿屋市英語弁論大会

令和元年度　鹿児島県代表
＜串良中　坂元杏吏さん＞

上位2名を12日間アメリカ研修へ派遣!!

◇ ALTと楽しい英語の授業

◇ イングリッシュキャンプ
（年7回実施）

かのや学校応援団事業（地域の子どもは地域で育てる！）

地域住民が学校支援ボランティアとなり、学習補助や環境整備、安全管理等の活動を行う。

ボランティア実績（令和元年度）
- 延べ参加者数　10,383人
- 延べ支援回数　　3,137回

【主な活動内容】
習字指導、集団下校時の見守り
農業体験指導、郷土芸能指導
読み聞かせ、樹木の剪定　等

1・2年「生活科」

〇昔のあそび指導

5年「家庭科」

〇ミシンの補助

鹿屋寺子屋事業

○地域ボランティアの方々のご協力により

- 公民館等を活用して、放課後の小学生を対象に学習活動の支援（学習習慣の定着）や地域を知る活動（郷土愛の醸成）、地域の方々との交流活動（地域づくり）を実施
- 市内25ヵ所で開設、今後さらに拡充

学習習慣の定着

◎東サンサン塾

郷土愛の醸成

◎はなおか未来塾

学校施設の整備

○学校施設の空調化の推進

小中学校の空調化率(R2.9末現在)

	普通教室	特別教室
小学校	100.0%	82.7%
中学校	80.8%	78.4%

令和3年度に全小中学校の「普通教室」の空調整備が完了!!

○児童生徒数の増加・老朽化に対応した施設整備

- 寿北小学校(増築 H30.6月完成)
- 笠野原小学校(増改築 H30.8月完成)
- 串良中学校(大規模改造 R元.12月完成)
- 鹿屋東中学校(増築 R2.6月完成)

▲笠野原小学校新校舎

鹿屋女子高の活性化

●鹿屋女子高等学校　新校舎完成 !!

・令和2年4月から新校舎での授業開始
・総合選択制や課題研究で、鹿屋市内の方を講師に招いてキャリア教育を実施

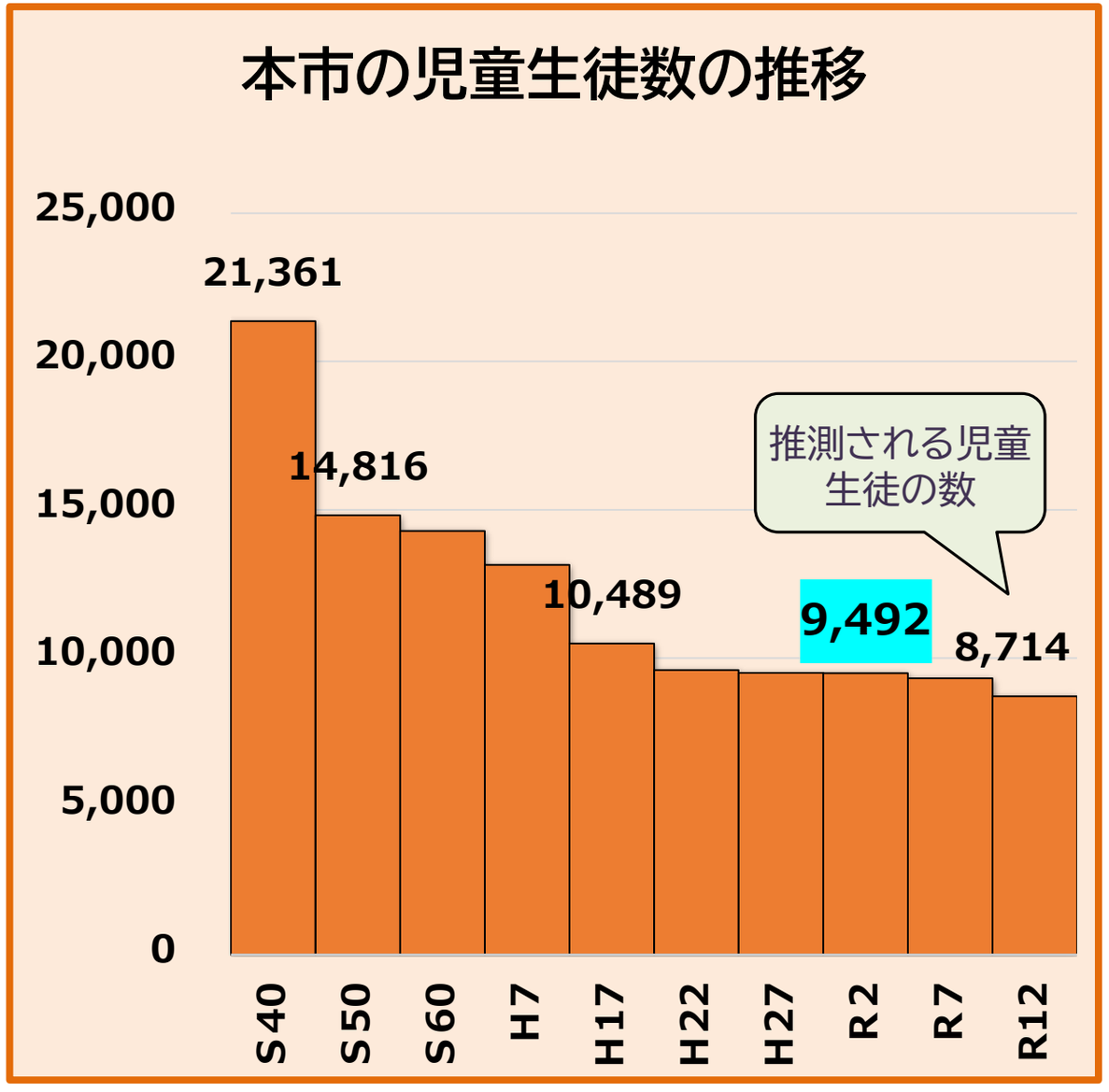
なのはなホール

学科の枠を越えて、生徒自身の希望により科目を選択できる総合選択制を導入し、進学や就職につながるスキルアップを目指す!!	
2年生	アクティブイングリッシュ、スポーツ健康学、社会教養、家庭科探究、保育福祉探究、文理探究、ビジネススキル(基礎)、ビジネススキル(発展)
3年生	看護医療探究、芸術Ⅲ、ハングル秘書実務、医療事務、ブライダル、アプリ開発、文理探究、ビジネススキル(発展)

県内トップクラスのICT環境で、タブレットや電子黒板を活用した授業を実施

学校規模適正化の基本的な考え方

○教育的視点、地域の実情を踏まえた学校再編の検討
○将来の児童生徒数を見据えた計画的な教育環境の整備



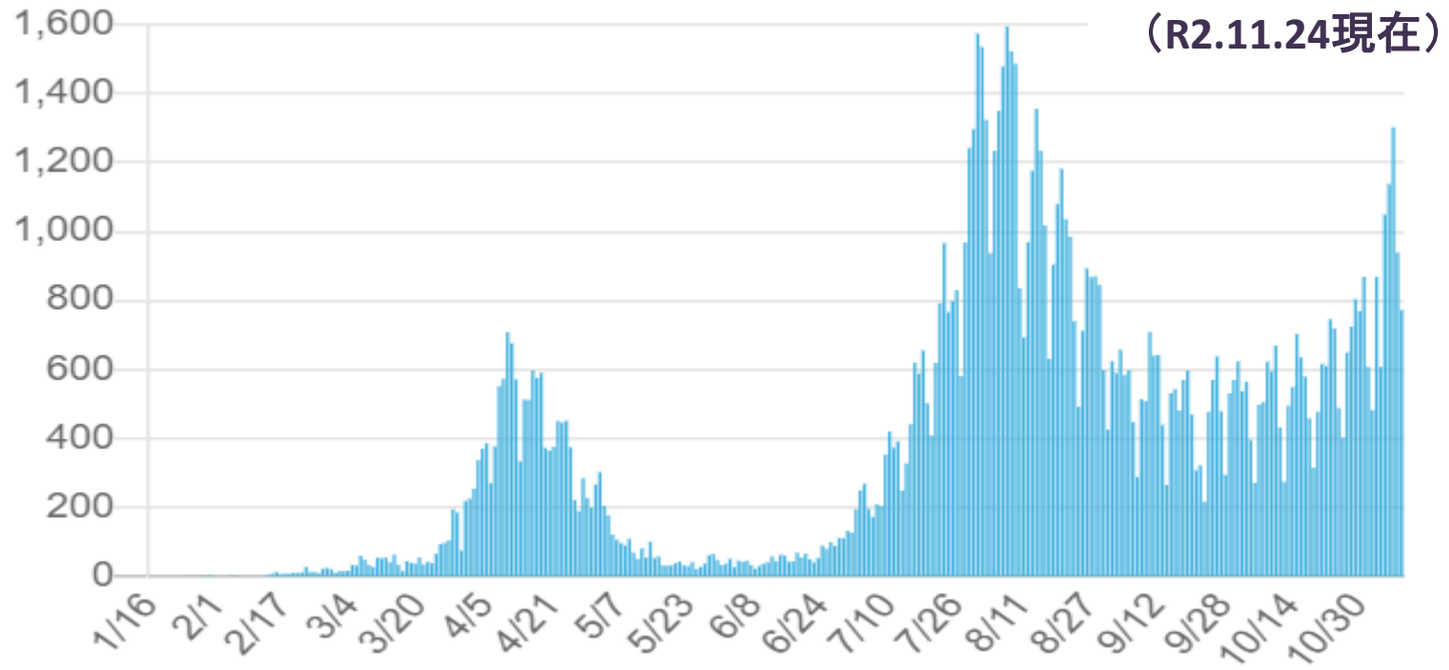
地区名	対象校	内容
輝北	百引小、平南小、市成小、高尾小、岳野小	輝北小に統合（H23.4.1）
	百引中、市成中	輝北中に統合（H23.4.1）
吾平	神野小	吾平小に統合（H25.4.1）
花岡	鶴羽小、古江小、菅原小、花岡中	小中一貫校花岡学園に統合（H25.4.1）
大姶良 高須 浜田	浜田小	大姶良小に統合（H27.4.1）
	高須中	第一鹿屋中又は大姶良中に統合（H27.4.1）
	高須小	野里小に統合（R2.4.1）

トピック

新型コロナウイルス感染症対策

全国状況

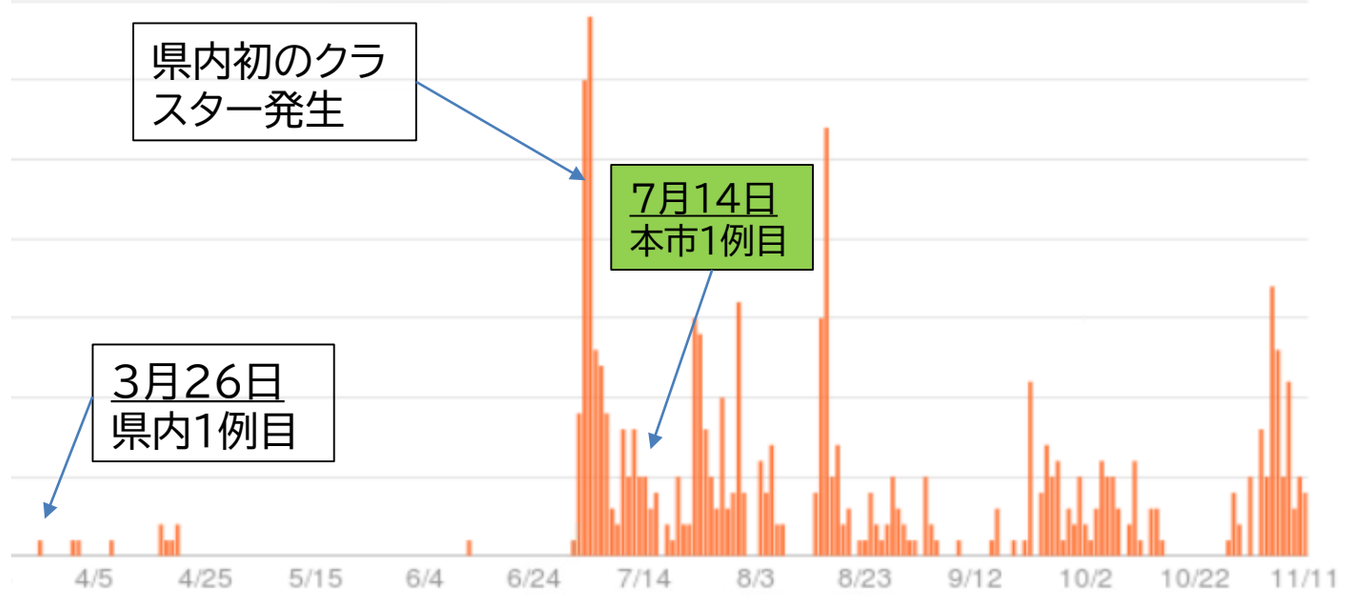
累　　計:136,462人
回復者数:113,999人
死亡者数:　2,028人



県内状況

累　　計:602人
回復者数:551人
死亡者数:　13人

うち鹿屋市:2名



資料:厚労省、鹿児島県

鹿屋市の医療体制（新型コロナウイルス対応）

○PCR検査体制（11月から新体制）

発熱患者等相談者

電話

受診・相談センター（保健所）
旧帰国者・接触者相談センター

紹介

電話

・かかりつけ医
・身近な医療機関

対応できない場合

紹介

対応できる場合

●発熱外来に対応できる医療機関
●鹿屋市PCR検査センター（鹿屋市医師会）

●診療・必要であればPCR検査

新型コロナウイルス感染症対策

市民・事業者の善意

マスクの寄贈

飛沫感染予防具の寄贈

非接触式体温計の寄贈

福祉施設へのお茶の寄贈

この他にもたくさんの方々から寄贈や御支援がありました！！

新型コロナウイルス感染症対策

新型コロナウイルス感染症対策予算（地方創生臨時交付金等）

区分	事業費	内容
事業者等支援	1,264百万円	飲食業支援、休業協力金、プレミアム商品券、農林業経営持続化支援、中小企業金融支援、保育従事者支援、生活支援臨時交付金　等
市民生活支援	11,175百万円	特別定額給付金、子育て応援給付金、ひとり親世帯臨時交付金、在宅介護支援、学生応援商品券　等
感染拡大防止	495百万円	児童福祉施設感染対策、高齢者施設マスク配布、PCR検査体制支援、スポーツ施設等感染対策　等
ICT活用	791百万円	電子自治体推進事業、小中学校等IT化推進事業
その他	146百万円	保育所等感染拡大防止事業、小規模福祉施設整備事業　等
合計	13,871百万円	

基地対策(米軍再編)

【これまでの経過】

年	月日	内容
H27	7.11～14	住民説明会(5会場)
	9.29	市議会受入賛同決議
	10.30	訓練移転の受入表明
H28	2.2	九州防衛局との協定書締結
R1～	9.29～	訓練開始 (実績:離着陸6回、地上給油1回、荷下0回)

＜訓練時の鹿屋市の対応＞

○訓練時の現地確認(基地周辺　等)

○基地周辺での騒音測定の実施

○鹿屋市基地関係連絡協議会での情報共有

※鹿屋基地における空中給油機
KC-130の訓練(※原則日帰り)

基地対策(再編交付金の活用)

＜再編交付金の活用＞　※令和２年度内示額　456,892千円

○基地周辺のハード事業に活用

・自治公民館等整備事業　・道路整備事業　など

川東公民館

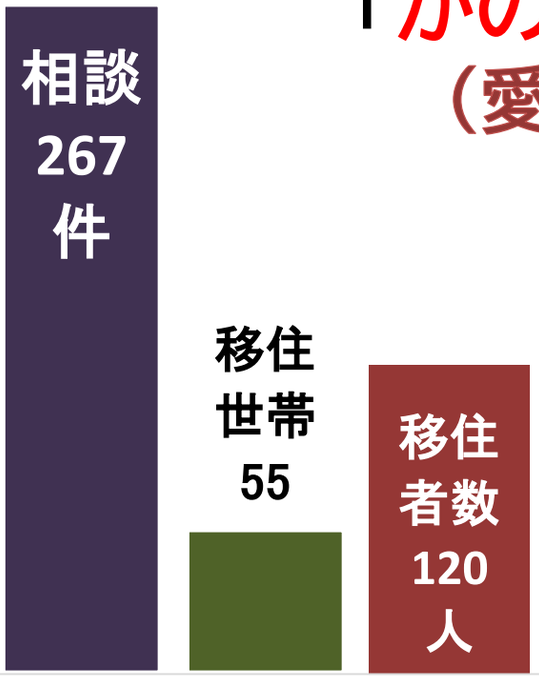
西原郷之原線

○ソフト事業に充当

・健康診査、がん検診事業
・妊産婦・乳幼児健康診査事業
・予防接種事業
・新生児聴覚検査事業
・出産、育児支援事業
・鹿屋寺子屋事業　など

移住・定住の取組(相談体制の強化)

「かのや移住サポートセンター」開設(R2.4～)
(愛称:おじゃったもんせ　かのや)



H27～R1(5年間)

・Uターンや移住を希望する人への情報発信
⇒SNSやHPを活用

・移住や仕事探しの相談

・住まいの相談
⇒市内の空き家を活用

市の相談体制＆地域住民の協力体制の確立

市全体(行政・事業所・住民)で移住者を歓迎

学校跡地活用事例

①地元住民による利活用（地域活性化）

プールを活用した釣り大会（旧鶴羽小学校）

“神野”山の学校キャンプ場（旧神野小学校）

②民間企業への貸付（産業振興等）

さつまいもの貯蔵・出荷（旧平南小学校）

キクラゲの菌床栽培（旧高尾小学校）

【その他の主な活用事例】

学校名	活用事例
旧市成小学校	介護老人福祉事務所、校庭・体育館：敬老運動会　等
旧高須中学校	体育館：少年団活動、校庭：ｸﾞﾗｳﾝﾄﾞｺﾞﾙﾌ　等
旧浜田小学校	町内会の運動会　等

学校跡地活用

平成30年7月
グランドオープン!!

ユクサおおすみ海の学校（旧菅原小学校）

菅原小学校跡地（H25.3閉校）の利活用
※民と行政（国、県、市）が連携して、整備

2020 グッドデザイン賞受賞！！

学校跡地活用

＜「ユクサおおすみ海の学校」の概要＞

項　目	特記事項
部屋数・収容人数	9部屋、116名
ビジネスと観光の割合	ビジネス1割、観光9割
インバウンド対応	英語が喋れるスタッフを雇用
団体受入（ツアー・合宿等）	可能（最大80名）
修学旅行受入	可能（JTBと連携）

観光やスポーツ合宿、修学旅行など体験学習等の宿泊及び観光交流拠点施設としての役割や地域の交流の場として、地域活性化に貢献！！

＜主な利用者（宿泊者数）：R2-2,653名、R1-3,141名、H30-1,064名＞

区分	主な利用団体等
修学旅行	県内小学校（岩川小学校）（R2～）
スポーツ合宿	県内大学、高校吹奏楽部・空手部　等
講演・セミナー	九州ｵﾌｻｲﾄﾐｰﾃｨﾝｸﾞ、まちづくりﾐｰｨﾃﾝｸﾞ、GAKKOｷｬﾝﾌﾟ　等
地域連携（軽ﾄﾗ市）	ユクサ軽ﾄﾗ朝市実行委員会（天神町内会）

ＳＤＧｓについて

ＳＤＧｓ（エスディージーズ）

Sustainable **D**evelopment **G**oal**s**
（持続可能な　　開発　　目標）

○2015年9月の国連サミットで採択された、2030年を目標期限とする、**国際社会共通の目標**。
○地球上の**「誰一人取り残さない」**社会の実現を目指し、**17の目標**で構成。

＜市の推進方針（方向性）＞

第2次鹿屋市総合計画に基づき取り組んでいる事業の全てがSDGsの17の目標につながる

第２次鹿屋市総合計画を推進することでＳＤＧｓの目標達成に寄与

総合計画の推進　（イメージ図）　SDGsの目標達成

＜市民運動としての定着に向けて＞

広報誌での特集　　出前講座の実施

○「SDGs」の周知啓発
○身近に出来る活動の紹介
・募金活動への協力
・健康診断の受診
・ゴミ拾いや清掃活動への参加
・防災マップの活用　　など

企業と市民の協同ゴミ拾い

ご静聴、有り難うございました。